



曾
15
2

18
15
2



集義和書卷之第四

太田文庫

書簡之四

一 來書略いめ一人は取く書とて一人の知とあはれ
 若し不知くと今人の書とて若と一人の知とあはれ
 とそとあり人の知と用也いと云ふなりとあはれり
 なるも其の人の代言と取用ひ給ふもわりとてとも若なり
 うとてよく却しわらふ事たはめへの道は今用ひ
 られとてんりい但何とも多用のうへ候もわらうと作
 やうも海よりなほ



門 曾 15 2 卷

返書略い今川の書とてぬよ痛よ利ある良薬とて
 徳園めも丸用ありん我とてふのあつぬよ若られん
 のつらふ事い用ひらの事ハあり聖人よ書力の作なり

とて若く降しつとつらりめ一人の若くえくんく
あまきと取用れど知くは誠立て人の善くさうころは
愚い人の善く接し徳とたり若人の若くさうの時人
よとらめり車とさるまふ一争とつてしむ若の名と
かど何時にころ損なり人めらうとさるまふとわびらるお
ト大舜の問くは成ゆて人の知と用ひ人の若とあもれ
ゆり天下古今の師とさるめりて大聖人なり樂封
他人の知と嫉て用ひ他人の若とあもれしむとこ一人か
知わりと思つしあはれとて天下古今の師と成ゆりて大聖人
なりとあもれ若悪の道理分明ることも凡情の摺りめく
樂封り行よるまふとふとい多く大舜の徳とさるまふとい
し思ひらるのまふしとさるまふ一人は善と用てしむといひ
りいといまふさうい媚かたの若くくも小知の理屬
まふて事へまふし小知もまふも人情時勢よあふま
あつともがまふし用て却てわいれまふまふりい賢知乃
者いといまふまふつとあひまふまふまふ若のあつま
ひをわりて物をさるり小人の言とあひ賢知のまふとあせふ
何とあひまふまふまふ燕王の堯舜のみりゆりまふ賢
よあつらまふの善名とあふまふまふ子之は剛とゆりて礼
まふまふまふまふみえふまふまふ人情時勢とあ
らまふまふまふまふ礼よあつらまふ小人の言といし人情時
まふりといひんや

一書略貴老の道子といし天下の名とゆるり人なり
まふまふ一向の物まふまふの横よ情まふ者よ達し字

とらふの故事と同様よも人下實りぬ

返書略平中より文さみなくは後進も字を定書よた
へい故事の史書さくはもは後進も字を定書よた

よもさ快の芳さく物知とさるもすの何の善さのさ
よの事ゆ博識の人いつは後進も字を定書よた

よて道さめ先覚とせしは平中先覚とぬへと徳さく
いふめより人かりさるて不知事とさるぬ後進のさか

人の先ささるに足ぬくい

一乗書略先目之概く系まはひも何のさび同可りぬ
らんとさくして別さしめ事強念りぬ

返書略後いひさ概とてい實り受用とるたの行進さる
事わりの進とさるてわりの道とては同さるも

人後日用れよよといてさくをさ用ひささるさく
らるししうさくひは可りぬ

一乗書略士ハ賢とさひ孫よと承いさるめ人の賢人の行
流と似といへるささくいへ海よりまひぬる快よ

てをも根元元史さくい外君よよて内小人も可りぬ
いく受用可はるや

返書略平近ゆり人の賢人君子のさと案一自己よ
後進さるさく見く學舎のつよ書付とさ小人とさる

よては君子とさる人よ一助りのつよと則ら一後進賢い
君子

一仁者心動たさく大山のさくも款さるる人
りさく静なり

かたき

一人見せしむるに神はさかしくしる事
といふ人見せしむるに神はさかしくしる事
事といふ人見せしむるに神はさかしくしる事
那由と得しむるに神はさかしくしる事

小人

一心利害は落し暗昧なり世事よおごと何と

あぐいさう

一心思外は向く人希世情のそ或は禪空或は妄慮

一順とぬと逆とすしは心愛し死とすくそく願のそ

まて

順にあま悦樂を頼りて迷ひ負は患病は頼り

一動してつぎ人々は終つて悲しく死んごと

欲をすして命ともわ

岩所深るれん滅しつれ竹破るれん義と事知

己より富貴をうとすも或はそわもすりて

かたきのかたり或はそのそ如く産能のこよふと

いありしそ益ととゆるるごとよとふとと親じ

人は回ると死く一せをかりり

一物にん実義の叶いこそと當世人のわびる事

かたきあまことさかすの義よ叶ゆる事

よやじ眼木の石と東流る竹也若竹のくあまは

くつと欲の欲よちうひて道よあつたをり

一人のこしほいふとすくい実よいふとすくい

わらうこと... 然るを... 有る... 中... 終...
 ... 改...
 ... 邪...
 ... 自...
 ... 一...
 ... 一...

一 道... 義... 行... 来...
 ... 一...
 ... 一...
 ... 一...

一 小人... 行... 人... 事... 之...
 ... 一...
 ... 一...

一 来書... 遠... 自... 親...
 ... 一...

... 一...
 ... 一...
 ... 一...

似か仁勇わかた可貴よわの徳性と考へ同きなりよ
はつと明かたれ受用せらるゝ知明かたなりあま
やんかたれもまじの勇力自在なりまじは私欲のな
くして事よあつ事よは明かたり時は大理想なり
て一神の仁のくつれ明かよかひて則親切の志は
あつと明かたり誠ありと明かたり明かるとあつ
かたのあまは明かたり功と受用せらるゝとあ
よ志の親切なりん事と願ひは毎ありて海と
ありんとあつたりくとしてあつたり大子の道は明德と
明かたりまかりん事と願ひは親民至善とあつ明徳とあつ
受用せらるゝ

一 兼書略しれ學者小成りなと心懸は志はもと
たやもことらりてあつと光張とあつなり
事と念なりあつ

返書略しれそのよは治の事と用のあるはら
がためといふなり此士よかりたつら書状を
もいふをよいなり各事ありと人なりとあつ
の人ありは海この人なりあつなり家とあつ
家なりとあつれ此士とあつ町人なりとあつ町人百姓
まこのは百姓とあつなり此士とあつ町人百姓
わり其教よとあつはあつなり其法なり其教なり
あつなり却るの目よあつなり年とあつなり
しれまるとしりあつなりこのつらあつなり
しれまるとしりあつなりこのつらあつなり

のあやめらにどくねいゆなり此不^レ在^レなりとて戒^ス
とら人の所^カ要^クめくい

一 未^レ書^レ略^シ淨^シ土^ノ宗^ノ日^ノ蓮^ノ宗^ノ尸^ノい^ノ人^ノ案^ノの^ノそ^ノい^ノん^ノ戒^トれ^ト
の^ノい^ノん^ノと^ノも^ノい^ノん^ノ惡^トれ^トて^トも^ト不^レ在^レと^レれ^ト妙^ク法^トと^ト
あ^ノま^ノい^ノ成^レ佛^トと^トい^ノん^ノと^トい^ノひ^ノ善^ク行^トと^トい^ノん^ノ雜^ク
の^ノい^ノん^ノ地^ノ獄^ノよ^ク落^トと^ト統^トを^ト本^ノ願^ノ寺^ノ宗^ノ同^ノ前^ノり^ノ
法^ノ法^ノ坊^ノ日^ノ蓮^ノ法^ノ師^ノと^トい^ノん^ノ如^ク快^クの^ノと^トら^ノる^ノと^ト事^トと^トい^ノん^ノ一^ノ宗^ト
と^トい^ノん^ノ免^レい^ノと^トう^ノと^トい^ノん^ノ事^トよ^ク今^ノい^ノん^ノ數^ク嚴^ク
の^ノい^ノん^ノ一^ノも^ト可^ク不^レい^ノ初^ノめ^ト不^レ後^ノの^ノ一^ノと^トい^ノん^ノゆ^クり^ノゆ^クら
不^レ書^レよ^クぬ^ク

一 法^ノ書^ノ略^シ法^ノ法^ノ坊^ノ日^ノ蓮^ノ法^ノ師^ノ教^ノ示^スレ^ル書^トと^ト見^レ行^トと^トい^ノん^ノ可^ク傳^レ止^レ於^レ念^ノ佛^ト
一 号^トを^ト戒^ト行^ト專^ク勸^ス淫^ト酒^ト食^ト肉^ト適^ク守^レ律^儀者^ト名^ト維^ト行^ト人^ト
一 憲^ト於^レ陀^ノ本^ノ願^ノ者^ト說^ス勿^ク恐^ク造^ス惡^ト事^ト成^ス是^レ佛^法大^ノ地^ト也^ト衆^ト
行^ト雖^ト區^ト同^ト專^ク之^ト是^レ以^テ善^ク道^ト守^レ和^ク尚^ト舉^レ目^ト不^レ見^レ女^人此^レ行^ト狀^ト之^ト
越^ス過^ス本^ノ律^制淨^ク業^ト之^ト類^ト不^レ煩^ク之^ト者^ト惣^ク失^レ如^ク來^ノ之^ト遺^ト教^ト別^ト
其^レ祖^ノ師^ノ之^ト舊^ノ跡^ト旁^トを^ト搜^ク者^ト汝^ト日^ノ蓮^ノ坊^ト云^ク七^ノ出^レ家^ト後^ト不^レ齋^ト
對^シ方^ト不^レ食^レ肉^ト權^ノ宗^ノ人^ト尚^ク可^ク然^レ况^ト正^ノ法^ノ行^ト人^ト哉^ト

一 祖^ノ如^ク汝^ノよ^クい^ノん^ノ末^ノ流^ノの^ノ坊^トと^トい^ノん^ノ人^トよ^ク異^クなり^ノ法^ノ法^ノ坊^ノと^トい^ノん^ノ
戒^ト行^トと^トい^ノん^ノと^トい^ノん^ノと^トい^ノん^ノ日^ノ蓮^ノ不^レ常^ク妻^ト子^トと^ト書^トい^ノん^ノ
を^ト持^トと^トい^ノん^ノ持^トり^ノと^トい^ノん^ノ妻^トみ^トと^ト可^ク持^トい^ノん^ノと^トい^ノん^ノ
事^トの^ノ有^ク男^ト女^トい^ノん^ノと^トい^ノん^ノも^ト家^トと^トい^ノん^ノ戒^トと^トい^ノん^ノ
戒^トと^トい^ノん^ノの^ノ事^トよ^ク世^ノ間^ノ代^ノ坊^トと^トい^ノん^ノ説^ト法^トと^トい^ノん^ノ彼^ト
戒^トと^トい^ノん^ノの^ノ批^ト判^トと^トい^ノん^ノ不可^ク及^クい^ノ

一 来書略思り 思索 覚照のめうひあがり 弟はく
しんくきとていつりめくひ

返書略古人をどうらうめかどうつじぬの數り
易しとつり是思索此事の心のゆゆり
理ていふは意の其術の功と積て後成世活の分別
を理居りわつた分別とては寛裕温厚めてひて
かた心本意とゆき明睿の照とてわりの意と覚照
と中の分別は自然よかして自得 意に従容とて其品
多しとつり詩哥よかして多しとつり
わくことと弟は又世事の其事よかして是れ
らされし鏡前よ白布とつり
といふ知と一知といふ知とと真知を中よわりの知有は
といつり

一 来書略聖人の言は何も何れの人めりく相叶は
と弟はとつりとと變条の礼儀とて今時處位り行
ひて此事多き三年の變つり
學者の教し思ひ立てはとわいぬる名実つり
終りつは十二と見しはそれなり其人のゆり事境
則のちつり
定めし是いつの端たり罪人多くも来す
年聖人の法とつり
かひて礼みとつり
か事とつり
今も儒道は法と立ててらわてはとせいつり

尸らあはまゝ大佛の初め此の端尤可成い
逆書略聖人の言に何世の時處位もしく應しく
とも採用いやくわらうりて害よあるものよ其の
奉死と以て生とほりあつたを一言としていひや
道理明白よは病志の無氣の情もしく思ひつらぬ
多くひの人の法のこゝにほあうせいのちから
死と以て子の生とほりあつたを一言としていひや
らく作をりつらぬ成なるものよと竹本金
石とみあつた物の物よ運氣よつていふの
況や人よといへるや今の人の氣作らう情もしく
りつらぬ世間の定法のよ十日の心精進めく相應
り氣根つらぬ志そののよあるものよ其よ心喪と
ひとあつたあつた又十日も祝言等の席へあつた
の奉りめし可なり神前ラホンの服フク日本の古法れ
ア一あつたつらぬはれ免とあつたつらぬ者とり
もつらぬ者多うつらぬ其人の罪のあつたつらぬ情時
と不知つらぬあつたつらぬ過なり極極といふと
通屋なまゝ百年の後人の氣根とつらぬ氣作は
り世中實業の風よつらぬ情もしくあつたつらぬ
まも身起つらぬ至治の澤とつらぬ時つらぬあつた
まも事つらぬつらぬつらぬつらぬつらぬ者わ
び今つらぬ誠と人事と思つらぬ者法よつらぬ
と者者ありつらぬつらぬ道の地つらぬつらぬ
の時よあつたつらぬ誠とつらぬつらぬつらぬつらぬ

書同目

この世のついでとていふことん情とていふ事とていふ事とていふ事
ありて大意と見ぬ世のついでとていふ事とていふ事とていふ事
口他のまゝ者の積見なきこととていふ事とていふ事とていふ事
仲とていふ情叶ふれば法とていふ事とていふ事とていふ事
身とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
故よ世よ為量ありていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
まよとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
まよとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
てその武士かまていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
ふたれとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
行ふ時を身とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
いふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
まよとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
大よ志ありていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
して三年の喪とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
又兄とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
まよとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
て衆したよ行ていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
まよとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
のひけとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
まよとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
俗とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
まよとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事
まよとていふ事とていふ事とていふ事とていふ事とていふ事

よわりの俗よわらうんまるといふ民の父母なる徳の

一 来書略 天子よわらうんまるといふ民の父母なる徳の
喪祭とぬいれり礼と作の類とありていふや

返書略 古来日本よ用ひらるる礼樂宮位衣服式制よ
聖とてしるもの遣唐使の傳りてしるものありて聖

代の遺法なれども遣唐使の傳りてしるものありて聖
の神道の法ありて中比佛法よ後つてしるものあり

社家よ少く残るる事ありてしるものありて聖
とて換よつひるものありて世にわらうんまるといふ民の

来神通よまらるるものありて喪祭の法よわらうんまるといふ民の
へも成るるものありてしるものありて聖

初ての葬よまらるるものありて世にわらうんまるといふ民の
いとと貴人と社家といふ大なる葬めして賢ととも不

別者ありて是又儒法より上代も神儒佛より用らるる
はなよ東照神君も神儒佛より用らるるものありて聖

とて上代武家共よ用ひらるるものありて聖
て見るにわらうんまるといふ民の父母なる徳の

一 来書略 主忠信の語諸儒の祝とすといふも文義の依
りて聖とてしるもの遣唐使の傳りてしるものありて聖

返書略 大なる傳りてしるもの遣唐使の傳りてしるものありて聖
とて聖とてしるもの遣唐使の傳りてしるものありて聖

返書略 大なる傳りてしるもの遣唐使の傳りてしるものありて聖
とて聖とてしるもの遣唐使の傳りてしるものありて聖

からし人懐厚くならん御の喪の時めのみ
らと可事(シ)の行業(カウ)厚くなりし其世の一年(イ)今の百
日(ヒト)も勅(チ)めやとる今(イ)の世(イ)愛(イ)みよ別(イ)してみ年
七年(シ)の業(イ)病(ヒヤウキ)礼(イ)よかりとも平生(イ)の事(イ)喪(イ)の体
る(イ)とあま良情(イ)餘(イ)なりとも(イ)礼(イ)根(イ)弱(イ)く堪(イ)忍(イ)代(イ)精
た(イ)とゆ(イ)なり況(イ)や良情(イ)の薄(イ)者(イ)つとめて(イ)と(イ)人
や(イ)あ(イ)ら(イ)い(イ)あ(イ)ら(イ)良情(イ)あり(イ)とも(イ)礼(イ)体(イ)弱(イ)く(イ)病(イ)時(イ)の(イ)事(イ)
よ(イ)と(イ)の(イ)く(イ)く(イ)為(イ)く(イ)なり(イ)ゆ(イ)く(イ)め(イ)る(イ)り(イ)又(イ)人(イ)の(イ)礼(イ)質(イ)
あり(イ)あり(イ)付(イ)の(イ)ゆ(イ)る(イ)方(イ)よ(イ)は(イ)れ(イ)あ(イ)も(イ)人(イ)り(イ)異(イ)なり
礼(イ)儀(イ)の(イ)法(イ)を(イ)ゆ(イ)れ(イ)も(イ)礼(イ)を(イ)深(イ)く(イ)者(イ)あり(イ)に(イ)愛(イ)あり(イ)て(イ)人
と(イ)恵(イ)と(イ)財(イ)と(イ)お(イ)り(イ)ぬ(イ)え(イ)し(イ)礼(イ)法(イ)よ(イ)疎(イ)ら(イ)り(イ)あ(イ)り(イ)
勇(イ)武(イ)の(イ)も(イ)も(イ)不(イ)仁(イ)なる(イ)も(イ)あり(イ)才(イ)是(イ)あり(イ)て(イ)真(イ)実(イ)厚(イ)

者(イ)あり(イ)如(イ)海(イ)の(イ)人(イ)こ(イ)う(イ)せ(イ)付(イ)の(イ)ゆ(イ)る(イ)不(イ)も(イ)自(イ)満(イ)して
多(イ)く(イ)不(イ)然(イ)と(イ)す(イ)人(イ)に(イ)互(イ)よ(イ)相(イ)助(イ)ふ(イ)事(イ)あり(イ)こ(イ)う(イ)
の(イ)と(イ)り(イ)と(イ)却(イ)し(イ)相(イ)率(イ)へ(イ)お(イ)敵(イ)く(イ)は(イ)友(イ)の(イ)勇(イ)を(イ)れ(イ)よ
に(イ)と(イ)ぬ(イ)て(イ)人(イ)と(イ)愛(イ)し(イ)終(イ)ひ(イ)利(イ)を(イ)く(イ)る(イ)に(イ)と(イ)無(イ)欲(イ)と(イ)愛(イ)を
と(イ)道(イ)徳(イ)よ(イ)し(イ)長(イ)き(イ)を(イ)と(イ)り(イ)る(イ)礼(イ)の(イ)格(イ)法(イ)り(イ)ぬ(イ)る
し(イ)流(イ)俗(イ)の(イ)弊(イ)あり(イ)て(イ)文(イ)ト(イ)し(イ)ぬ(イ)り(イ)ま(イ)友(イ)一人(イ)の(イ)罪(イ)
わ(イ)ら(イ)と(イ)の(イ)不(イ)足(イ)と(イ)あ(イ)り(イ)て(イ)之(イ)の(イ)徳(イ)と(イ)麁(イ)と(イ)し(イ)こ(イ)う(イ)し(イ)せ(イ)こ(イ)
よ(イ)も(イ)あ(イ)ら(イ)し(イ)と(イ)況(イ)や(イ)末(イ)代(イ)よ(イ)つ(イ)し(イ)も(イ)ま(イ)友(イ)の(イ)徳(イ)と(イ)
し(イ)上(イ)代(イ)よ(イ)ま(イ)道(イ)徳(イ)と(イ)必(イ)と(イ)れ(イ)ぬ(イ)も(イ)厚(イ)く(イ)し(イ)ぬ(イ)る(イ)古
よ(イ)礼(イ)の(イ)格(イ)法(イ)よ(イ)只(イ)誠(イ)と(イ)専(イ)也(イ)伏(イ)義(イ)神(イ)農(イ)の(イ)代(イ)も(イ)三(イ)年
の(イ)喪(イ)く(イ)哀(イ)情(イ)救(イ)ふ(イ)心(イ)地(イ)光(イ)明(イ)あり(イ)て(イ)飾(イ)を(イ)り(イ)こ(イ)に(イ)勇
意(イ)秋(イ)伏(イ)義(イ)氏(イ)の(イ)時(イ)よ(イ)生(イ)れ(イ)し(イ)心(イ)と(イ)考(イ)ひ(イ)ら(イ)る(イ)礼(イ)の(イ)格(イ)法

書同

高

一事として儒者の道と云ふことありてその心は人情の名利
 伏居らざるもの覺の代より進らざるもの其後此格法を
 のち心に達して天性の徳と磨き入ると思ふは不可なり
 これ其の終と信じてより糸の遠と進なり氏の徳磨
 とよ海とむる人道の重なる所なり格法を喪失するに時
 教位と云ふ一人心の誠と云ふはのち格法より拘て不叶
 と云ふ不徳と云ふは其の心と云ふは格法乃儒
 との世より功あり事と云ふは其の心と云ふは恩徳
 ようれと云ふは其の心と云ふは格法より拘て不叶
 不教又行よくて日中水と云ふは叶と人情ありては儒法
 と云ふは終より又儒法と云ふは格法より拘て不叶
 三年の喪の法と云ふは其の心と云ふは格法より拘て不叶

格法一
 采書略喪の中魚鳥と食せざるは生類と忌の要なり
 らる佛家の流は似たり祭礼は肉と用る時又生類と忌
 りともなくは拙を若く無福なるは時年中蔬食
 水飲しては何れも不存は近年一年年中病ふは
 ぬらぬ目生魚と食せざれば氣の急しく十日食せざ
 るは腹中わしく成り加換りて三年の喪のつよよ
 として三月を如くありて何れも辨へざるは
 返書略喪の一の主意あり憂れ中なるは静り妙
 し事よわゆると肉食の味と来るも樂みの類るは
 食ふは蔬食と云ふ命と云ふものなり只酒肉と忌の

こととみ幸を何れも相火と物と精気と
 物と食との胃水堅く固して人道之感として
 蔬食味をけし腹よる力も杖つて起居
 以喜怒の発とれは成る皆壯年の若生樂
 とせりんらりなりぬ老て小兒の
 食と酒と飲多し衰服の身よあつた病人も
 心りよと食して樂とよ品とよ喜とよりなり
 氣血盛めて精神はれといふ味と忘の
 とよの腹よるめと夏時よくたれ
 しくは寝て安くとおまの古人の氣血健よ
 くを病めて精神盛なりとよの聖人位よ依て
 一法を法り今世の人法のしくは
 しく眼赤や生と喜怒の情発し易く生
 樂の念勃之易し喜と食し喜と着し喜
 の居と安して不怒不笑不樂事ハ聖人大賢とて天
 贊美よあるといふ成るや人の火よ古の人喪
 ぬらう法あり法ありといふと今の人其
 法の身之位よ不叶な法とよまして行なり
 よあつて人の心よわるといふ世俗定法の五旬
 回を元氣とよとてあつてあつて薬と服用と
 折る千魚とよ用らるる貴族とよ
 六十めといひ七十の人とよ又社年
 人の後やめたりといふ其間神妙簡あつて
 素書略三年の喪今の人情よなりといふ律僧行人

かんと見ゆて又成り此るもふかぬ浄土守目蓮宗
と申す者しつらぬくは律とて別を立てて回
元僧より戒と持てる喪も若くは服飲食よき
別よおこはいつとて三年法とめ過し可なり又心喪と
ておじついつとてとく公よ喪と勅しりては
向急度立たりも成りころんころん

法書略律僧行人とて喪の勅りころんころん
まともなれば世の極樂へ生れんとて違ひよ幸か
ああるとてこれ極樂ありとて事よ今の百姓よ律僧の
一食と尸物とあつていころんこれ律僧と可なり坊主
しころるりころんころん若くは若くは又も
し律僧とてころんころん

拙んも乳根とて時分名開とてりて三年の
へとねいといふもまぬの乳ころんころん
心喪とて尸の身よ服と着せころんころん作法
違と見りり今心喪とてころんころん
ころんころんころんころんころんころん
ころんころんころんころんころんころん
と見ゆて一目のころんころんころんころん
ころんころんころんころんころんころん
衆のころんころんころんころんころんころん
法よ落して一流とてころんころんころんころん
ゆころんころんころんころんころんころん

よ法のを見てまろくつり一まをさく上達とて
上達も亦得るぬものなり

来書略此来書も君み不重不威を章の流と
得は君み学者の稱なりま同いまて君みたる

の道なまのまをさく移て君みたる在位の君子と
も何理なき古人のよるふれ道徳あり故よ

在位の人と君みたる重し不重し氣質よあり
生付形も怪しくぬかあつて人のなまあ

かろうたぬわさの威ありまふふのたも徳受用
して堅固なり氣質怪く浮氣なるまあかりやと

らして威ありまふふのたも得心ぬかあつて
まふふ人品静重なり威嚴なりまふふの田畠の

地福なりまふふの種とてまふふの地福の
厚さも余り主忠信の義徳とてまふふの

まふふと友とせしと過して速くまふふと各を
つらうを耕作のたよりと執りまふふ

返書略此章の文義読めまふふの究明聞えやと此
のまふふ見い誠の心よありと忠とつひ事よありと信

とまふふ忠と忠と天理自然の徳心よありて空く如る
まふふの所謂未発の中なり人言と信とと人の言の

まふふに實の如くまふふの私欲ありと信と
まふふの忠の徳なり也信の業の始なり人身にまふふり

わし忠信とまふふとまふふを友と友とつひ面友と明
とまふふと擇み移るまふふとまふふと面友

として礼を以て交とてとて小人とてとて心友とて
 て徳とてとてまよへてとて君との過へ日月の食れ
 おりてとて速く改む代もとてとて善くありて
 かりてとて平人たり君よの道の道路ありぬとて
 質辭重かりて内は徳業の半とて誠をく介過と改
 れは懐くして一旦誠重なりとてとて終よに怒る
 へとておしとて人の實と人皆知へばとて氣質怪しく
 しては信よとてとて忠信とてまよへて過と改め善く
 つとては氣の頓に疎し天然の清く明りたるけよゆく
 しく人れおととてとて其誠ありぬとて人れ感と
 ちとて重なりとてとてとて君よの重なり
 とてとてとてとてとて外邪とよとてとてとて

武の乃かり恭敬ありて礼儀ありとて重なりとてとて
 死生貧富の回をむとて勅とて其志と奪へてとて
 威ありとてとてとて氣質の極重なりとてとて
 ととてとて親と今のは位と安とて平人の善なり賢
 ととてとて善ととてとて過と改め義と後と日新成徳
 の業なりとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 ととてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 人われとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 一書略経書と見ればとて中終悉く解きんとて心氣
 かりとて却て寒く極よとてとてとてとてとてとて
 けて可なりとてとて

一 書略略 終り終りて句く皆解せんとするは書と解
とらめていへんをと尋して受用れ平意よあつてい
又要と得ぬりと思ひて他と味するも弊あり情は
と吟詠し 道德と海をどうと詩のさあつてい道
理本行の我心なり 経傳の我心を道理と解しつるの也
経傳とよめて信するの我心の存理を見ればなり
我心の存理の對也 躬なり書中れ一章と行要と之止
終りつるも又甚解とどうと甚解とどうの書と平行
として我心と夫よの弊あり 吾心の位と其體の心
と夫とどういへく受用の要と尋す平の付よりつるも
のめい故の時よ我心よ受用の要と得んし終り廣く
つりて道德と海をどうと 自新の功と終りて氣質と變化

一 再書略略 廣くつるのいづれ書と續てつる也
逐書略 予ら廣くとつるの意極の理よ作して公とあれ
のさつらめつるの書の中とつるのさつらめつるの
て聖賢多し 経傳の美處の心は射よ孝經大學中庸
のさつらめつるの論語孟子も是れなり 忠經よ
つるのさつらめつるの書の中とつるのさつらめつるの
つるのさつらめつるの書の中とつるのさつらめつるの
天下の疑ひ多し 何れ書の文義と事らふにのりや
一 素書略 道平入り何れ大道と編ひや
逐書略 世の道とつるのさつらめつるの大道の存
りて大道とつるのさつらめつるの進ひて獨拔とつる

得たるよゆえに獨異かまふこと他人悪事と云ふ
このことさう然りて一人とてなれりては善
の行を全くしむこと一人の心とてしんじつと
三軍の將の士率とたよるをもさして獨士の勇と固
ひさうのありし衆のあつてふと氣と見ていふは
とじつとわりの亂れありと人のあつていふは
かた世の道學の小道なりとていふは
來書略に

還書略に

器り水と十分入し持てるも人の事人心の危なり
こころのよきこと欲のあつて中心を盡明とす
夫事右のこころのよきこと

大率と云ふことと事よなるもゆるぐはきり
まれの事なりとて人の盡明とてこの主意
を以て事なきを以て事なきとて用らるは天
下生と好まぬことなりとて事なきを以て
とみぬぬ其念慮のこころのよきこと

事物のこころのよきこと盡くして
悦むは中人の生付たりとて
さうと氣のこころのよきこと
の松と若こつて思ひは
歩行乃時とて思ひは
これもぬと道理なりとて

心やめは事務物の不審よかをほくさおくるさるる心
 心正意欲の妄と云はる事事務物の妄と云はる事
 とはらりめく九根の亡しい事事務物の意欲の妄
 皆ん心り付く事事務物の意欲の妄
 むくいもむと云はる事事務物の意欲の妄
 心正意欲の妄と云はる事事務物の意欲の妄
 しと見ゆと心上の受用の大方はも金持の人か
 なる者多くいび九位と云はる事事務物の意欲の妄
 世くはく九根りか意欲の妄と云はる事事務物の意欲の妄
 なくぬりのめといはる事事務物の意欲の妄
 心正意欲の妄と云はる事事務物の意欲の妄
 むくいもむと云はる事事務物の意欲の妄

一物より徳と入徳と

一物より徳と入徳と云はる事事務物の意欲の妄
 心正意欲の妄と云はる事事務物の意欲の妄
 とはらりめく九根の亡しい事事務物の意欲の妄
 皆ん心り付く事事務物の意欲の妄
 むくいもむと云はる事事務物の意欲の妄
 心正意欲の妄と云はる事事務物の意欲の妄
 しと見ゆと心上の受用の大方はも金持の人か
 なる者多くいび九位と云はる事事務物の意欲の妄
 世くはく九根りか意欲の妄と云はる事事務物の意欲の妄
 なくぬりのめといはる事事務物の意欲の妄
 心正意欲の妄と云はる事事務物の意欲の妄
 むくいもむと云はる事事務物の意欲の妄

して七十ありて公の欲するよらざるものごとくあえさ
れ道義一貫義欲一致天道を心の動よ回しこめて
あらんくは口とせしを則てなり是とわくは法なり
一と其中よあり

一 節ふ三荀物を以て時の事あるくは如出入備日用なり
といく篤實を受用ありぬやと人堅よなり
れとらせあるものめくあるくは悪と盡となり
我事ぬ誰もむとぞ人のぬれ十分不覚は人
我へしむる仁るは故ぬはわりの受用あり朋友
を眞実を交れ天と父母と兄弟兄弟其徳と
あひく相交れと信し内外一なるや一なるやと都
れとい傳る道理と受用せらるるまの病なり
友よ同業ありあは日用ありあはれむや受用せらるる

一 者よゆひ

一 勿正と志好といさうさぬをとり勿忘心をこめさうさ
勿助長と才覚と用へらるる百姓の農業と信と
ひねく職人の職とつとむるさうさ
才覚と用ひを考ふるさ事として自得と待て
以徳を善と行し候し徳となり事ぬの経傳と見ら
馬礼樂とさひ自この罪とらるる過とさうさ候ひ
五倫道あり等し事ぬれ善と行めくは不義とめくは
悪と恥ぬるの吾りわらと天真とすいあまこと主人公
うしてなり事ぬれ皆善ぬるは事ぬるは事ぬる
然くわりのり非

一 克己復礼カチキフクレハ天理人欲テンリジンヨクをくひふまざる礼ハ理なり己ハ私也
礼リリクカチスル所則天理なり則天下我心内カチハありを平
人の己カクシヤをまじけ己賢人の己高下淺深各列カクシヤするが大方
申書付のころくめくめハ三月不違仁の語、克己の語、
礼ハ四時三月めくくつらぬとハ年中此事なり年
中ありふくするころも不違ハカといふ、やこのつら
化ハ至と成時と不違のむもつくと無公ムコウなり、
天理流行のころハ

集義和書四卷

集義和書卷第五

書簡之五

一 来書略同姓を不娶乃法トボウケいふ、日本ニッポンよもめて控
るころころをいふころハ俗ハ随スグヒて不若フシヤクとせし
治シりとも近年同姓ドウセイハいむの義を聞傳へて其禮と守
ふ者あり、出来いあらわやとて礼儀とある、こと
又大義也とあり、ひくまた系ケイ知チ覺カクとむる、くして不若
とせし、治シりといふほいせむと也、且つことゆへ
も叔母姪オシモもととむる、んそれとては會ケイ獸ジュり近チカく
かへし、只ヒトけ勢セキふとむる、い儒法ニョウホウとしてか、く同姓と忌
礼儀乃則を廣くは友儀トモノリなり、作
返書書函ヘンショとす、小物コモノハ小物コモノなり、いれ、いれを言者コトバシら

孝者也といふ事も其の人二十人の相格法乃
 学者二三十人の相格法は過へくはつらふ相交ふか
 らうと天下乃ねかざるに世俗の人情とあつても時
 勢とあつてもして何れも傳へりていふ事ハハ知る
 今天下の人皆聖人と同性同徳なるにいふ事聖人乃
 字代不聞き賤き小衰世の俗も習ふこと百年歳より何
 そ礼儀を習ふよはつとをいふ人や古の聖人伏羲氏か
 あつて相継でいふ事其間をさありやその儀
 伏羲より神農より神農より百七十七百八十七年神
 農より黄帝より百十九年黃帝有熊氏在位百年
 あり是れとと二皇より少昊金天氏在位八十四年
 黃帝の子より顓頊高陽氏在位七十八年黃帝の孫也
 帝嘗高辛氏少昊の孫も在位七十多あり之崩
 信儀法として不徳ならず九年に之廢せられ天下帝
 擊の弟放勳ととて帝よりけし帝堯より帝堯陶唐
 氏在位一百歳あり帝舜有虞氏在位四十八年あり
 是れとと又帝と号も合せくと百八十九年あり禹湯
 氏を三王と号も禹より湯もありは四百三十九年
 あり湯より成王よりは纣より六百年あり伏羲氏
 紀の後のいふ事は一免さるる事ありといふ事礼
 儀法なる神農氏継がらるに後へくは耕作醫術乃民
 と書ふ事と事とされはは黃帝の時礼樂乃聖あり六
 き文章始なりとありといふ事も一朝の宮あり五
 帝の時礼儀法は大繁ありといふ事も易簡ありて行

皇極經世一

二

易一人民の情よさらば誠化よりの善も鈍く人の
秋よふと随て制法出来ね夏高代歴く周ふ及び文の
の運移りて器物飲食ちよさらり事事をりてるは
や一あふふかあましく人情と溢せし先さくむのた然り
礼儀乃防かほく出来教期あやふふのう一留河亦集
ふううして物ふまのさりしこの時器物多々人奢るる夏
まの周の盛世入たさるるまゆもあまほへしあうれとも
人民のこれ礼儀も習いされしは伏羲の時れく伏羲
乃民も礼儀と不習とあましく實朴純厚なりて情欲う
とく利害を一一との人情欲厚く利害治さ事其の習
十百年ふあうと根固く涼涼一俄よ世俗の人情と控
あふ利害と情を道行りあうらす今乃世乃民を
あましく一紅おの若成導くく一童蒙の巻一神

知の用られと徳一世俗し学成先りく礼儀を欲
とるは待へ一三四又業の奇ハ義の端とありあう
まてまふらうれんありし知乃端とありひらまて春
悪とらうらあまうはまもいふと義不義を毎へと
善悪を物ばあうに及るは六七八業にとりひて津
運のんまに故を聖人ハ業はあまは待と小學よ入
給ふあまうとまうて其固有の時ふあうらうら
又六百歳とあうこの世俗を又ハ業の童乃時のこ
先子校の政をとらく是非言をと辨ふ知とひら
て物ばあうら義と鈍し一十数十年数百歳成歴と
はのあまうと俗とく礼儀とあう一しは伏犧神

豊の徳の固る孔子の安んずるはよあると固る孔子乃
知乃伏羲神豊は倍するにあらず時とらふ小し
只時の中をさるはとくしつとくしつの中をさるは
中とらふれ知の固るは徳の三皇又帝とくしつと
そらりとくしつるは天地ひくま入道あつれは則時
よむつとれをさるは何ぞ三皇又帝同様成めとくしつと
の法とくしつとくしつと固るは徳とくしつとくしつと
さるはれをさるは徳とくしつとくしつとくしつとくしつと
のかうらうらとくしつとくしつとくしつとくしつとくしつと
はあふな未去ふらうらうらうらうらうらうらうらうら
さるはれをさるは徳とくしつとくしつとくしつとくしつと

豊の徳の固る孔子の安んずるはよあると固る孔子乃
知乃伏羲神豊は倍するにあらず時とらふ小し
只時の中をさるはとくしつとくしつの中をさるは
中とらふれ知の固るは徳の三皇又帝とくしつと
そらりとくしつるは天地ひくま入道あつれは則時
よむつとれをさるは何ぞ三皇又帝同様成めとくしつと
の法とくしつとくしつと固るは徳とくしつとくしつと
さるはれをさるは徳とくしつとくしつとくしつとくしつと
のかうらうらとくしつとくしつとくしつとくしつとくしつと
はあふな未去ふらうらうらうらうらうらうらうらうら
さるはれをさるは徳とくしつとくしつとくしつとくしつと

三皇又帝とくしつと

て學校の政乃やんらんとして初ふへし其君脚より其
時とてはあつてさうまくさしむる今我同志の人こと此
家の格法者とい天下の秀才なりけ軍の聖人乃はどの
つむく成望いしと九牛の一もさると天の代世信を賦し
いふに聖学乃道理とてにも不聞況や法成りつむくさ
かりひとさうす能い其申すし法ふんあつたもさうも
彼百人の意蒙乃中の一二人をもさうとさういし世信
より学事ふとゆふと学者知あつても許容さうとさうい
況や世信の中より教ふ者なれどやうかともさうす世
信の人いふと學法不聞いふと法成りつむくともさう
者乃道と位とさうとかりあつたよりと人さうとさうい
夫性の徳乃とられしあり今の学事あつた物かといふと

いふに彼好人よりとさういふとさうと学事と世信の
すね道学乃學といふとさういふとされとわつたあつた
つとも教代の習乃法も代も不洗利害とてたも免つ
とさういふとさういふとさうと世信はたつたといふ
まを平人のともあつた事あり毀譽利害相違をいふ
捨といふとさういふとさういふと世信のみあつた
法ありと學者の徳成りつとさういふとわつたといふ
揚といふとさういふとさういふとさういふと時處位
と持来てひつひつと天下千百年のありつたといふ
と神道王法の教よあつたといふと兵庫國の學者乃一流
といふと彼一派乃名のとさういふとさういふと
戒と持律宗と産律とさういふと世信と二おさうて

獨の道よりなりぬ異端と相争りぬの也何乃河小道
 とりつむやそん意父と切書と要らふ感も不知ら不識言
 を導るに知賞のむしつふ随ひさつふおれとあり
 ぬつとつと一尊人を信とまふ何そよ魯人権較らぬと
 孔子も亦稱較と舞とつとつとつとつとつとつとつとつと
 善とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 衆とくとも小愚とあり故に學者信依舞とつとつとつとつと
 舞とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 りつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 三百の礼儀とつとつと三千の威儀とつとつとつとつとつと
 然とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 朴素眞實無妄乃風俗とつとつとつとつとつとつとつとつと
 周の礼儀備つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

氏よりなりぬとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 るつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 夫がなり竟衆周とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 の同姓成忌の法成りつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 如何とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 て百婚家あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ちつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 字ふ後とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 一より本とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

ことごとく世より世に承るるまあり是より後賢者概継之
 出世し終つて性成賜り終代別ちるもの一救代を盡て
 財をくも五服の忌を宣免服の如く分ハ娶ざる後二
 分をせしめ則周心前の別を乃古法よりそいふ
 漸とよりそより初よりそより終よりそより天地ひく
 氣化よりりて生れんを天地を父母とて兄弟
 たり男母とては父子何り兄弟をいけし何の人兄弟夫
 婦とかなんかともいふ物も由ほく人の心徳を
 父子親何り志は義ありて夫婦別何りぬよ父子廉と共
 よせぬお交りくご多の歎と異なるよ條理をなとく
 野處穴居其内男女別ありてさ道理とていふよ上右乃
 聖人は明賞の知ふにほく兄弟夫婦とていふ

ハ礼は出身如き下兄弟お承るの如くいふ礼
 しては伯父姪叔母甥もほくさ親戚ありては次乃
 聖人この靈明とていふく伯父姪叔母甥夫婦とてい
 ぬくくさるハ礼法は立よりて兄弟伯父甥を天倫の親
 りく長幼の礼はくさくさく後思身ハ他人乃婦
 此くく長幼ハ礼も朋友齒ハお護るくこと一故よよ
 よハ忌より後世の聖人五服ハ知て孝子小人の學又世
 にはくあつた所とていふく父方の再従兄弟より子服五
 いよく一本の親とていふく男女五別の礼とほくく
 子めハ腹乃あるもてハ婚姻不通乃終と立終へて母を
 ちよくこのまこといふくも服さげきく女のみく
 身なり姉妹乃子ハ同姓さくはくハ親ちくくハ服

是かつて世よりあり再世此身の前を同様するとい
くも彼をまれば婚姻の忌なり是礼や上吉なりは
やうにしく義徳多し米世よりハ最善なり礼法と目
せよかぬくは世を尊君継かると治りけし程を以て
至徳とすしつとさう今の世おたるとハ聖賢の志記を
すめしつとけし程とたて治りて同様成るるを親
きふる人よりめまををまふとてさう極めやうと
きとも治りしと乃法身とて世をさうさう固本神代の
ひりの兄弟も夫婦ともうあひまは世文徳なり道
て雅法成るるともなくも徳とまをさう道理とさうと
兄弟と忌伯父姪伯母婿といふ事と利らふかふ者
凶賊を犯人とせしめんとて弟と尊とす

者あるも人道ありす會敵するといふふらんは
さうあるけし人への罪とて文徳のほをたを漸く
えしうちてかくのこゝとさふとてさうさう神人の
類のこゝはいふとてさうさう父も母もたれくあひ
いふはその中乃風俗なりと教干業なり義よかめて
害ありとよ右の聖神なりとも何ありとて忘たまは
はよほして世とさうさう大道とさうさう考へたは見え
他父姉妹をさうと甚絶なりとあひしてさうの聖神
とて信ぜしつと自世とつた同姓をさうれ固人と見と
して其時の聖賢との信ぜしつとさうの信ぜしつと
あひしとた右の民乃末世の民なりとさうさう
たは世のとて信ぜしつとあひしと末世の民乃た右の民

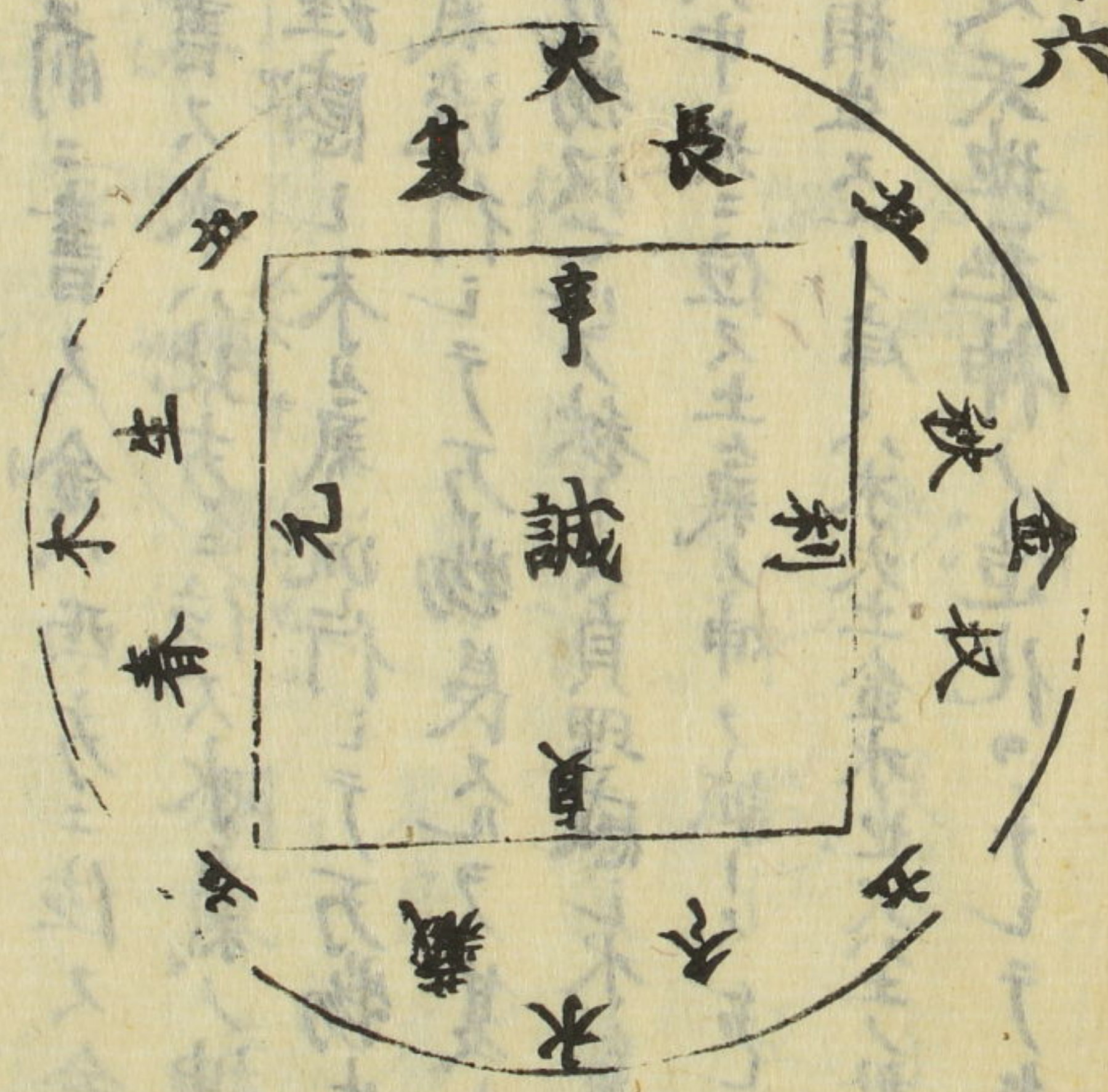
此の世の聖賢の信ぜしつと

し

集義和書卷第六

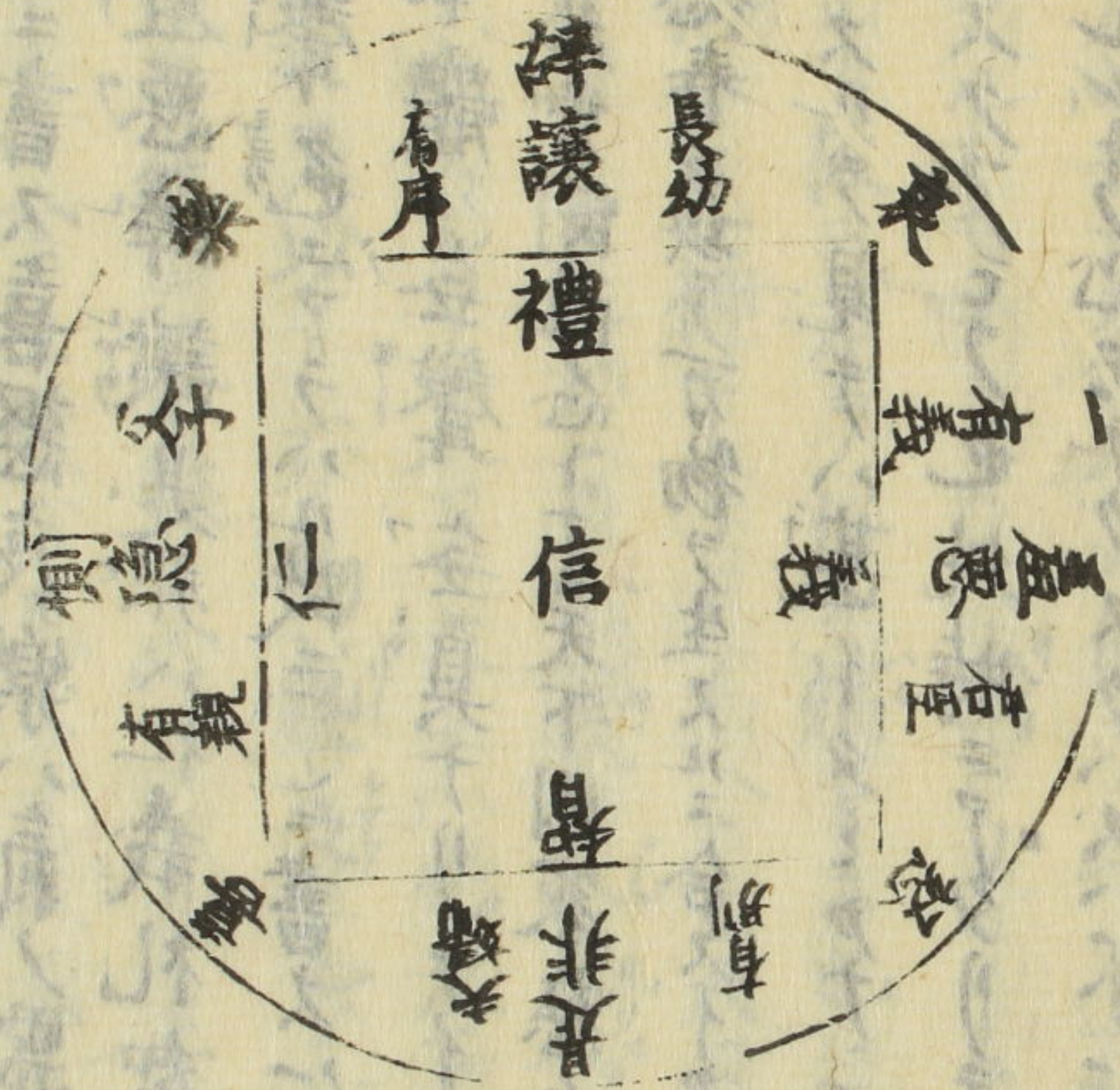
心法圖解

天道



□ハ寂然不動ノ象也 ○ハ流行活動ノ象也 □ハ理ヲ圖
 ○ハ氣ヲ圖ス太虚ハ理氣ノミ天道ハ至誠存息也故誠字
 ラ中ニ書ス誠ハ天之道ナレハ也其中ヲノツカラ元亨利貞

條理アリ是ヲ天ノ四德ト云四德モト一理ニシテ每方ノ
 神ナレ天地間ケ秋象アラハレテ後木ハ東方ニ位ス
 木ノ氣ノ神ヲ元トス故ニ元ニ書ス火ハ南方ニ位ス火ノ
 神ヲ亨トス故ニ前ニ書ス金ハ西方ニ位ス金ノ氣ノ
 神ヲ利トス故ニ右ニ書ス水ハ北方ニ位ス水ノ氣ノ神ヲ貞
 トハ故ニ背ニ書ス元理感シ木ノ氣流行シテ万物生スルヲ
 春トハ亨理感シ火ノ氣流行シテ万物長スルヲ夏トス利
 理感シ金ノ氣流行シテ万物収メルヲ秋トス貞理感シ水ノ氣流行シ
 テ万物藏ルヲ冬トス土中央ニ位ス土ノ氣ノ神ヲ誠トス方ニ用ハ四
 季ニ應スルカ故西隅ニ書ス相生スルノ序ハ木火土金水也火土ノ母ナレ土ハ
 未申ヲ盛位トス是天地鬼神ノ造化ニナレテ無盡藏
 人道



父慈 子孝
 君仁 臣忠
 夫義 婦聽
 兄良 弟悌
 朋友 交信

惟此至極ノ理ニ五ノ精妙合シテ人ニナリ明德ソナ
 ハ元是ヲ性ト云性中ヲノツカラ仁義禮智信ノ條理
 リ天ノ元ノ人ニアルヲ仁ト云天ノ亨ノ人ニアルヲ礼ト云天ノ

抑ノ人ニアラテ義ト云天ノ貞ノ人ニアルヲ智ト云天ノ至誠
至息ノ真ノ人ニアラテ信ト云タトハ同シ水ノ流ナレ所ニ
ヨリテハ川ノ名ノカハルカ如シ仁義礼智信ハ天理未発ノ
中也故ニ□ニ書ス喜怒哀樂ハ氣ノ靈覺ナリ故ニ○ニ
書ス惻隱羞惡辭讓是非ハ仁義礼智ノ端ナリトイハレ
氣ニ感シテ聲色ニアラハル故ニ○ニ書ス仁ハ天ノ元徳ニシテ
生理也其本體ハ空聲ニ至真ナリトイハレ感シテ天下ノ
モトニ通スルキハ慈愛惻隱心トナル天下國家慈愛ナクテハ一日モ立カ
タシ是天ノ元徳春ヲ以テ万物ヲ生スルニ合スイカナル愚天愚婦モ赤子
ノ井ニ入ントスルヲ見テハ甚イタミカナレムル心生シハシリヨ
リテイタクスキスクフモテ也此時ニアタリテハ其赤子ノ父ニ
ウレシク思ハレトノ心モナクスクハスハ不仁ナル者ト人ニアラ
イハレト思フ心モナク其又母ヲ知不知ノ辨ヘモナシ此心
ヲ人ニ習知タルニモアララス天機ニウゴイテ不能己ミツクテ
モ不知慮ナリ故ニ是ヲ仁ノ端ト云也礼ハ天理ノ亨徳ニ
テ盛大流行ノ至神ナリトイヘトモ天下ノコトニ惑スル時ハ
恭敬辭讓ノ心トナル上下貴賤ノ分定リ位品アリテ相
彰ハズ相シノカスシテ天下太平也天下太平ナル時ハ物
ノナハレ天ノ其ヲ以テ万物盛長ナルニ合ス神明ノ宮社
ニ近付トキハ自然ニ恭敬ノ心ヲヨリ主君ノ位ヲスクル時ハ
君井ニサストイヘトモ敬心生ス一父不通ノ賤男賤女モ
客アレハ馳走シタキ心アリ飲食菓子ニ至ルニテ多クアラ
タヘ少キヲトリヨキヲユヅリアシキヲ食スルノ事アラ
スト云フトナシ故ニ是ヲ禮ノ端ト云義ハ天理ノ利徳ニ

テ神武ノ勇アリ天下ノコトニ感シテハ善惡邪正ヲ断
断ス天ノ秋ヲ以テ實ノル物ハ成實シ葉ヲツシコノ黄ハミ
ヲチ虚實ワカルニ合ス羞惡ノ心ハ我ニ惡アル耻カシク
思ヒ人ニ不義アルトキハニクム心生ス此耻ノ心浮キ者ハヨク過
ヲ改メ善ニウツリ賢人君子ノ地位ニモ至リ易シ每學
ノ野人トイヘ死ヘキ所ニテハ死シ至君ノ難ニ當テハ命ヲ
カレンシ名ヲ後世ニアクル者アルハ此羞惡ノ心ノ故也故ニ
義ノ端ト云智ハ天埋ノ貞德ニシテ心ノ神明也空ニトシ
テ衆理ヲ妙ニス天下ノコトニ感シテハ是非善惡ノ鑑トナ
ル天ノ冬ヲ以テカクシ天氣清明ニシテ来歳春長秋ノ根
トナルニ合ス智ノ本体ニ是非善惡ト云モノアリテワカワ
ニ非ス一物ナクシテ虚明神靈ナル故ニ万事万物ノ故アリ
スハレ情ワカル也鏡ノ虚明ニシテ一物ナキ故ニ物ノ
故ヲウツスカ如シ鏡ハ虚明ナルノミニテ神靈ナキ故ニ
物ヲウツスハカリ也智ハ神明ナル故ニ能天下ノ事ヲツ
カサトリ物ヲ成也然トモ鏡ヨリ外ニハ智ノ象ニナスキ
物ナキ故ニ古今タトヘトスル也惣シニタトヘト云モノハ一端
ノ形容也全体不測ノ神靈ハタトフヘキ様ナシ鏡ニ扇
アリトモ一物ウツシ置テ是ヲノケガル時ハ他ノ物ウツラ
ハ智モ空クトモノ一物ナキ時ハ能万事ニ應ス知識ノ多ク
ニアルトキハ真知自然ノ照ニ非ス知者ハ每事ナル処
ヲ行トテ知者ノ國天下ノ政ヲナシ事ヲトルハ易筭ニテ
何ノムツアミキ事モナク水ノ流ルカ如ク也知ニ是非ハナケ
レトモ物ノ是非身ノ善惡ヲワカツモノハ知ナル故ニ是非

書論六

心ヲ知ノ端ト云ナリ信ハ至誠無息ノ天理ニシテ仁義
礼智ミナ信アリ故ニ四端ミナ眞實ナル安ナリ天道
ニ元亨利貞ヲ去テ誠ヲ不言カ如シ四時皆上用アリ
如シ誠ハ天ノ道ナリ誠ヲ思フハ人ノ道ナリ故ニ信ヲ
中ニ書ス仁義礼知モ各方ノ神理ナレバナシク水火木
金土ノ神ナレ故ニ天地ノ方位ニ配シテ書ス四端モ又四時
ニ配シテ書ス喜怒哀樂ヲ四隅ニ書スルモノ天ノ時ニカタ
トル喜ハ春ノ色也哀ハ秋ノ聲也樂ハ夏ノ象也怒ハ冬
ノ氣也喜ハ愛ヲカチ哀ハ懼ヲカチ怒ハ惡ヲカチ樂ハ欲
ノ心也又心正キ時ハ七情節ニアル故ニ聖人ノ喜怒哀樂ハ
四時ニ配ス又王一度怒リ至ヒテ天下ノ民安キモノハ冬ノ寒
氣ツヨクシテ来歲豊年ナルカ如シ亦天人合一ノ圖五

倫ノ五典十義ヲ書スルモノハ天ニ五行アリテ人ニ五倫アリ
リ五行ノ神ハ元亨利貞誠也五倫ノ眞ハ仁義礼智信
也故ニ父子ノ親ハ仁也君臣ノ義ハ則義也夫婦ノ別ハ知
ナリ長幼ノ序ハ礼也朋友ノ信ハ則信也又母ノ子ヲ愛
シ養育シヒトナスラ慈ト云子ノ父母ヲ愛敬シ安ル
ヲ孝ト云君ノ臣ヲアハレシ各其利ヲ利トシ其樂ヲ樂ト
其生ヲトクル様ニ政教ヲナシ玉フヲ仁ト云臣下ノ身命ヲ
君ニ奉リニ心ナク眞實ヲ盡スラ忠ト云夫ノ婦ヲアハレシ夫
ノ家ニ心ヲ止テ安座スル様ニ能教ヘミ子ヒクヲ義ト
云婦ノヨク夫ニシタカヒ地ニテ天ナキ如ク我夫ノ外ニ天下ニ
夫ナキ貞ノ道ヲ守リカリフメニモウシロクラキ事ナキ
ヲ聽ト云兄弟ハ天倫ノ親ニテ同氣同親ナレハ連レル枝ノ

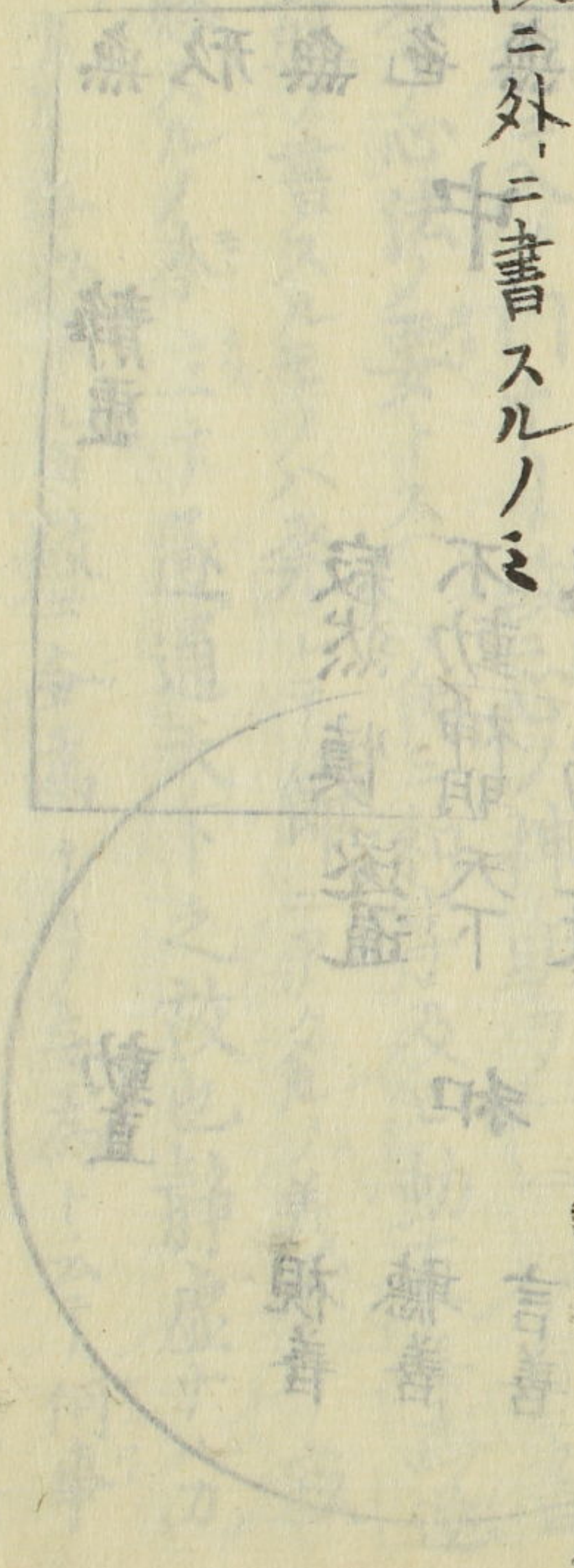
書簡六

五

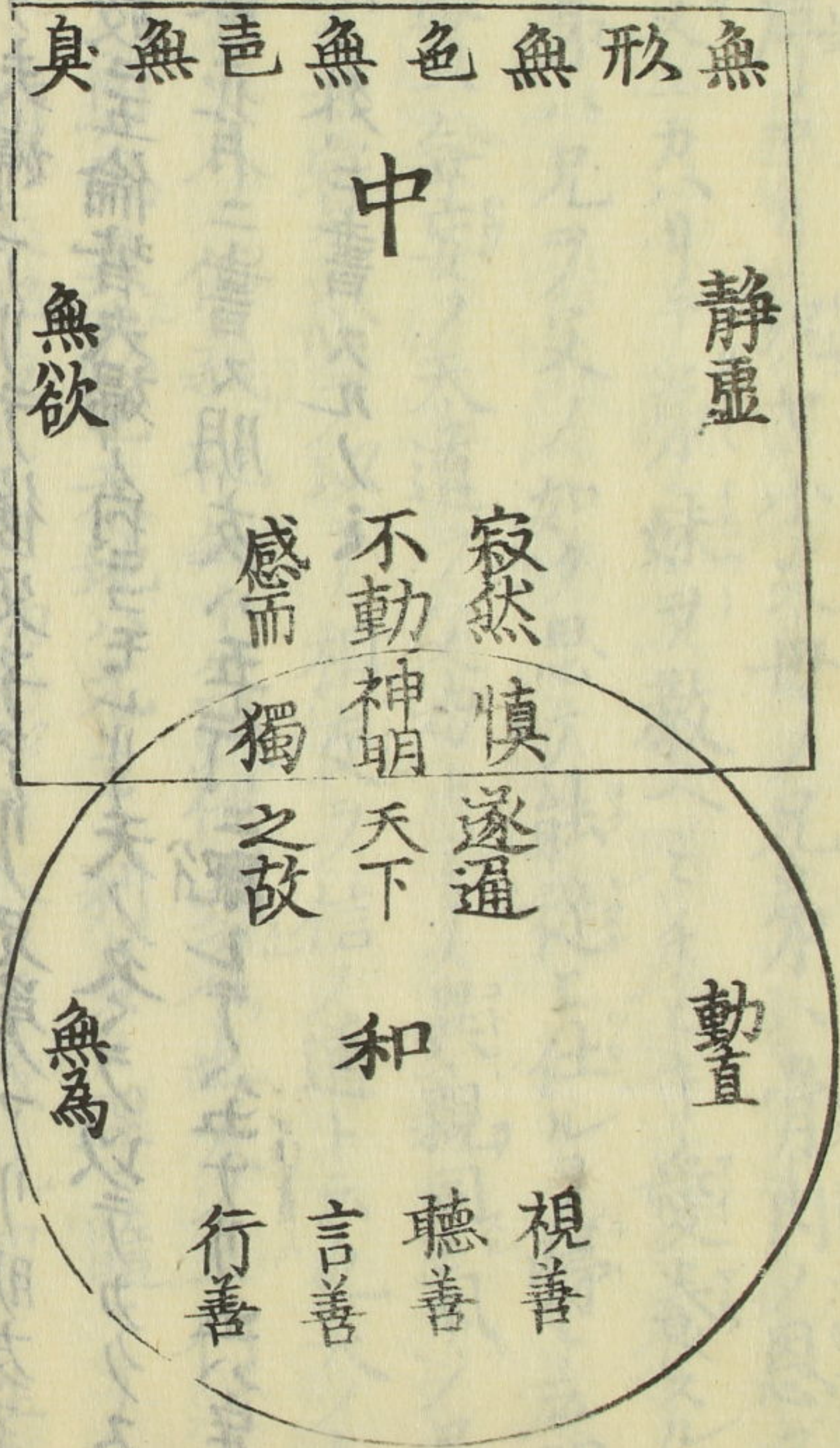
如シ太父母ノ次第ヲ以テ年長セルタニ位トシキ時ハ
長幼ノ序アリ況ヤ小父母ノ兄弟ハ骨肉ノ恩ア
レハ兄ハ父ニカハリテ弟妹ヲ教ヘミチヒキ愛養スルヲ
良ト云第ハ兄ヲ父ノ如ク思テ能從ヒ仕ルヲ悌ト云明
友ハ眞實無妄ノ天道ヲ父母トシテ異親同氣ノ兄
弟ナレハ眞實ノ心ヲ以テ相交ラ信ノ道ト云也天ノ元
亨利貞ト人ノ仁義礼知トハ同体異名也天ノ五行ト人
ノ五倫トハ同氣異形也天地ハ元亨利貞ノ理ニ隨ヒテ四
時行ハル、時ハ天地位シ万物育ス人ハ仁義礼智ノ性ニ
タカツテ五倫明カナル時ハ家齊國治天下平也又母子
ヲツメルハ春生スルカ如シ故ニ左ニ書ス兄弟長幼相ツラズ
其長スルカ如シ故ニ前ニ書ス君臣ハ極ヲ立ルノ本義ナリ君

臣相カナツテ國治リ天下平ナリ天地ノ化育ヲタスケ
テ物ヲナセリ秋實ノルガゴトシ故ニ右ニ書ス夫婦ハ人倫
ノハシメナリ天地ヒラケテ後男女アリノ男女アリテ後
夫婦アリノ夫婦アリテ後父子アリノ兄弟アリノ兄弟アリ
リ君臣アリ故ニ五倫皆夫婦ノ内ニモレリ天ノ冬ヲ以テカクス
ガゴトシ故ニ背ニ書ス朋友ハ五行ニ配シテ五ナリ土ハ定
位ナレ故ニ外ニ書スルノミ

21



心法

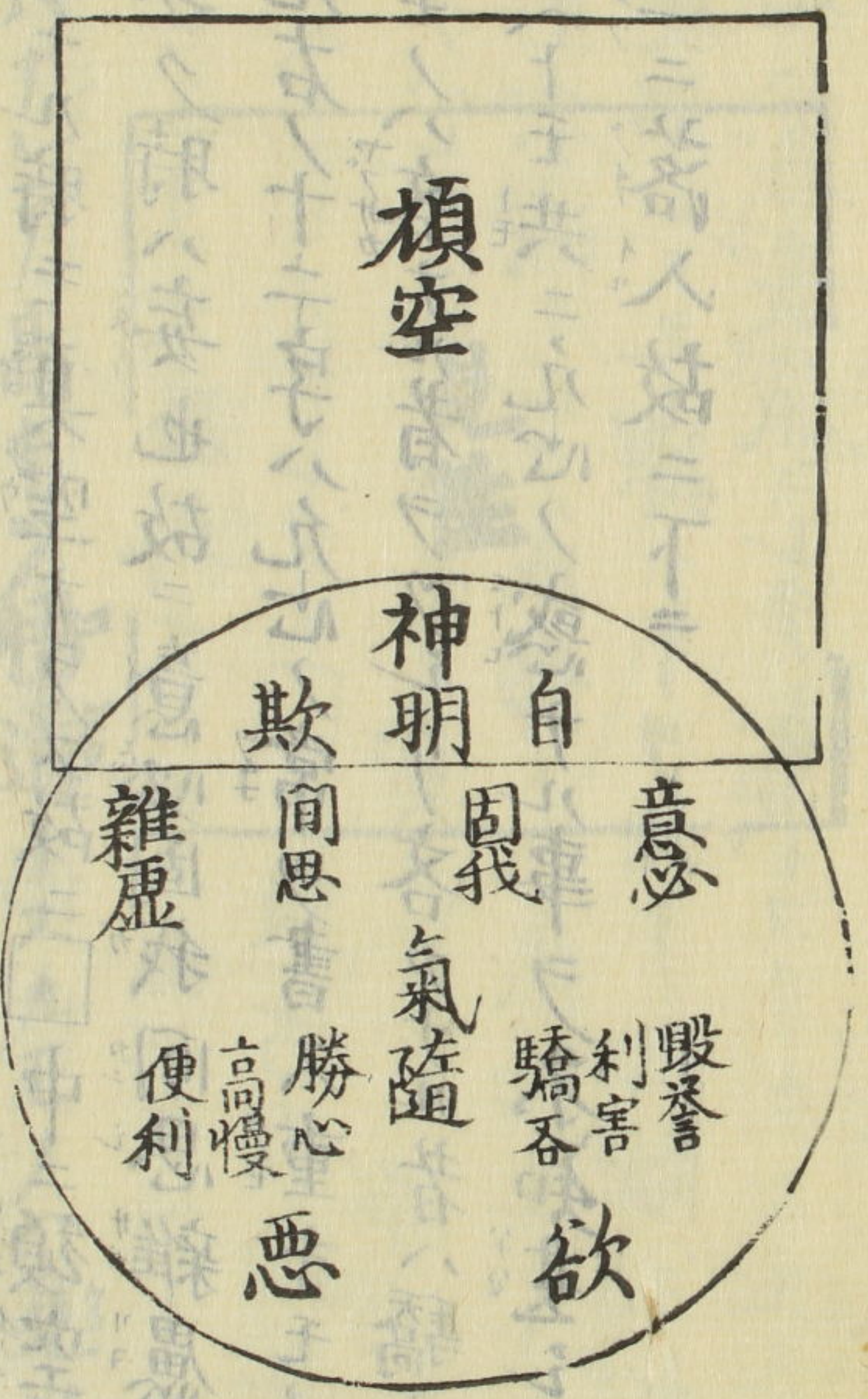


心法ノ圖ニ□ノ内ニ中字ヲ書スルモノハ中ハ天下ノ大本ナ
レハナリ上ニ無形無色無臭無臭ヲ書スルモノハ未だ
ノ本然ヲ去ナリ靜虚無欲ハ中ノ徳ナリ寂然不動ニ

シテ感スルモノハ中ノ神理也故ニ皆□ノ内ニ書スル神
理ナリトイヘトモ五徳ノ中ニ先感スルモノナリ夫下ノ万事
ヲツカサトリテ照サスト云事ナシ動テアラハス有無
ノ間ナルカ故ナリ無聲無臭ノ本然ニライテハ手ヲ下ス
ヘキ様ナシ聖人ノ教ヲミウケタニヒ學者ノ問學子ヲ好テ
理ヲ窮メ徳ニスノ内ナリ故ニ心ノ神明ヲ□ノ内ニ書
シ慎獨ヲ以テ心法ノ要トス○ノ内ニ和字及ヒ動直無為遂
通天下之故ヲ書スルモノハ堯シテ節ニアケルノ義ナリ寂
然不動感スルノ本立テ遂通天下之故也靜虚ナルカ
故ニ動直ナリ無欲ナルカ故ニ無為ナリ無為ト云テ何事
ヲモナサハルニハアラス人欲ノ私ナク天理ニシタカツテ不得

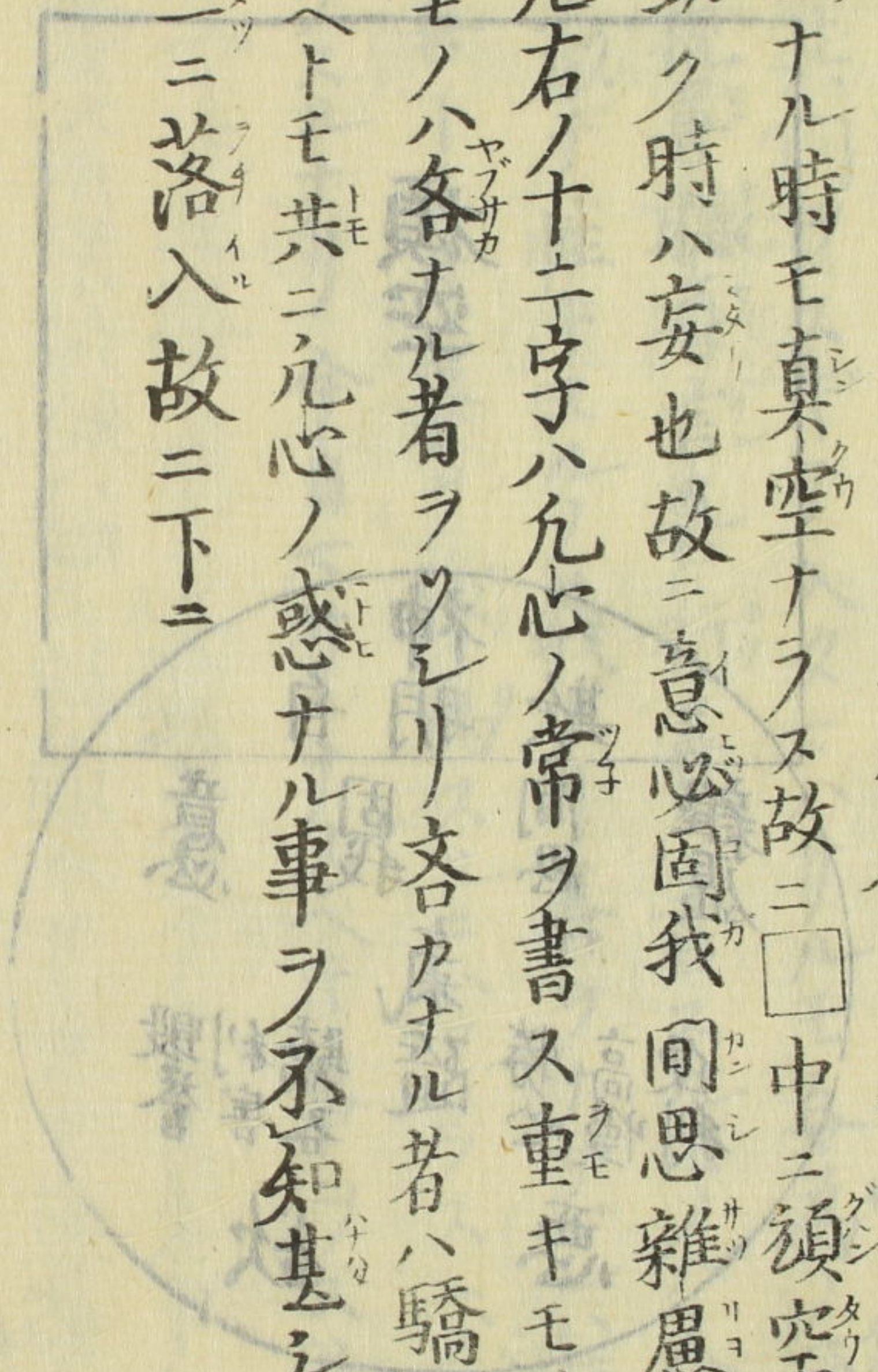
己レテ應スル時ハ終日為^{スル}コトアリテモ^{ナキ}無^ク為^ルナリ同^シ文
 字ニテモ利貞ノ利ト利欲ノ利ト黒白ノカハリアルカ
 ゴトシ天徳ニアリテハ物ヲ利スル故ニ道ナリ凡人ハ己ラ
 利スル故ニ欲ナリ其ノ禹ノ洪水ノ時ニアラツテ外ニ
 年三度其ノ門ヲスキテ入タニハサルモ^至為^ルノ至ナリ
 ○ノ下ニ視善聽善言善行善ヲ書スルモノハ人ハ動物
 ナリ行ヲ以テ性トスルノ義ナリ善ヲナサバレハ徳ヲ積
 コトナシ善ト云テ事ヲ作為スルニハアラス六藝ニアリ
 フモ善ヲスルナリ今日ニサニナスヘキ事ヲスルハ己ナ
 善ナリ

凡心

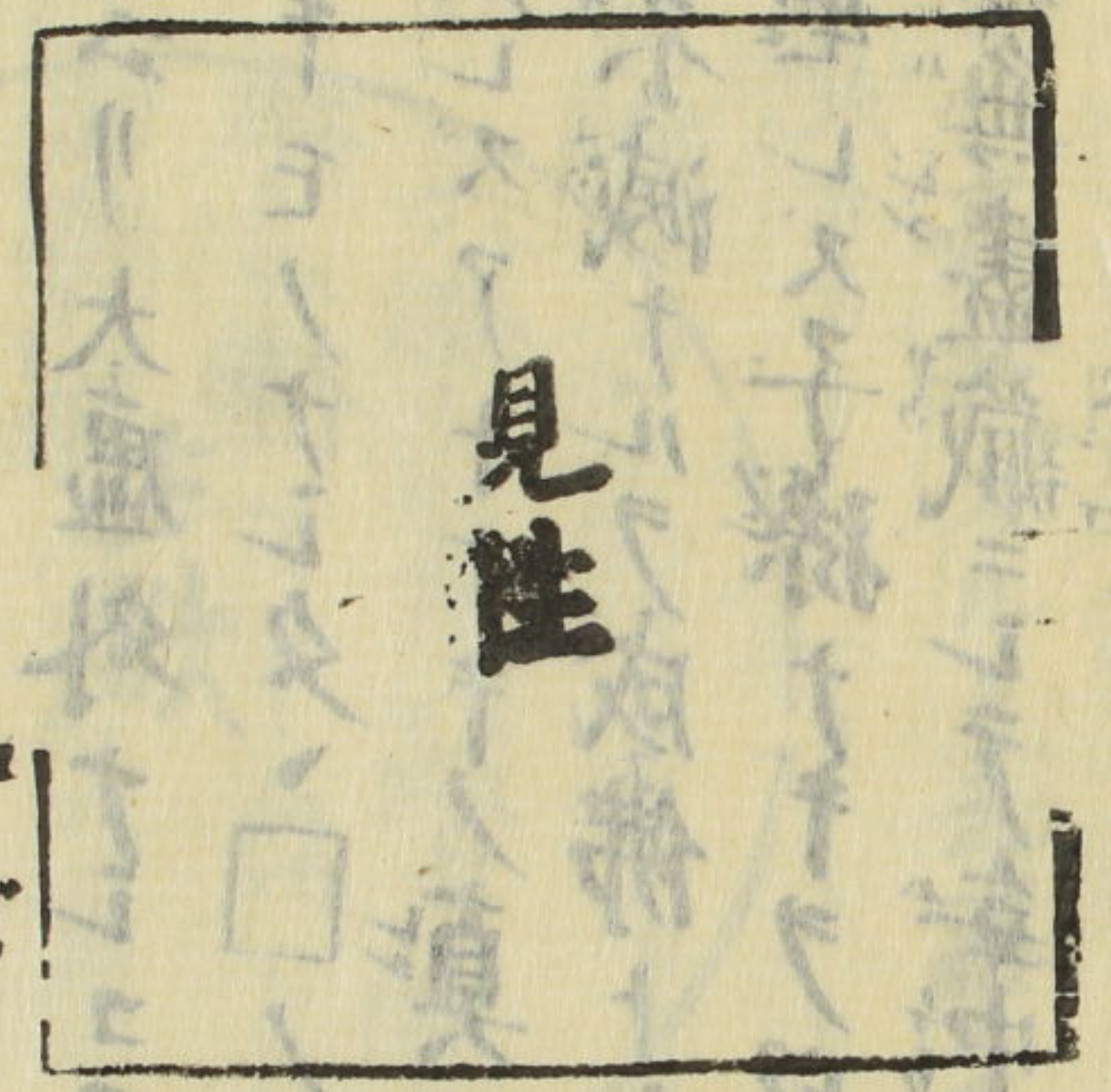


凡心ノ圖モ○ヲナシテ神明ヲ書スル事君子ノ圖
 同キモノハ人ト生レタル者ハ聖人凡夫共ニ天性ニライ
 テカハリナシ善ヲ知惡ヲ知ルノ神明アラスト云コ
 トナシ人ト不義ヲニクシ惡ヲハヅルノ良知是也夕

慎獨ト自欺ノタガヒヨリ千里ノアヤミリト成テ君子小人ノ名アリ然トモ一念自反シテ惑ヲ辨ヘ獨ヲ慎ミ過ヲ改メテ善ニウツル時ハ凡夫モ君子トナルヘシ故ニ神明ノミ同ク書スルモノ也小人ハ自欺テ氣ニ隨フ故ニ心ノ体空ナル時モ真空ナラス故ニ□中ニ頑空ヲ書ス念慮動ク時ハ妄也故ニ意必固我回思雜愚ヲ○中ニ書ス左右ノ十二字ハ凡心ノ常ヲ書ス重キモノヲアクルノミ驕モノハ各ナル者ヲツレリ各ナル者ハ驕ル者ヲツレトイヘトモ共ニ凡心ノ惑ナル事ヲ不知其レキ者ハ欲惡ノ二ニ落入故ニ下ニ



悟道



見性

□ノ○ヲハナレテ高キヲ悟道トスルモノハ見所ノミニレテ用ヲナサハルコトヲ示ス□○ハ理氣也理氣ハ凡トキハ共ニアリハナルヘカラスハナル、時ハ□モ實理ナラス○モ真氣ナラス□中ニ見性ヲ書スルモノハ異端トイヘトモ寂然不動無欲無為ノ性ヲ見タル事ハ一也□六

至ノ至極ナリ聖學ニハ其全ヲヨク窮タル故ニ惑ナレ異
 學ニハ全ヲイヘトモ全ヲ窮メツクサハル故ニサトリタ
 ル所ニ則惑ナリ造化ノ神理ヲ見フコナヒテ天地ヲモ
 輪廻ト見タリ故ニ曰儒學ニハ天道ト云テ大ナル事ニス
 トモ天地ノ道トモニ感ナリ故ニ佛氏ハ太虚ヲ出陰陽
 ヲハナルト云リ太虚外ナレコエ出ヘキ所ナレ亦輪廻
 ナレハナルヘキモノナレタ、□ノ寂然不動全欲全為
 ニシテアラハレズアトナキノ真ヲ見テ佛性トレコ、ニ
 至テ不生不滅ナルヲ成佛トシ陰陽生々ノ氣ヲハ
 ナレテニ度生レス子孫ナキヲ以テ出離生死トスルナ
 ルヘシ造化ハ無盡藏ニシテ年中ヨリ生ズ生ズル者ハ消
 ス行モノハカヘラズ輪廻ト云事ナレ全始全終トハ云ヘシ

不生不滅トハ云ヘカラス□ノ前後アラハレス形象也
 臭ダニナケレハ亦滅スルト云事モナキヲ不生不滅ト
 イヘルナルヘシ

禽獸

主欲

○ノニキレテ□ナキヲ禽獸トスルモノハ禽獸ハ形氣
 人欲人ニ以テ心上ス故ニ○中ニ主欲ノニ字ヲ書ス理

知覺ナケレバナシ生浪死トテ生ルモワキヘナク死スルモ
辭ウセスルバカリナリ禽獸トテモ
事ハナラヤレトモニコリテクラフキ故ニ理ノ靈覺イカダ見
ヘズ故ニナキカ如シ

或同鷹ノ長知ノ序アリテ行ラミダラサルハ□照シ
アルニ似タリ 曰陽鳥ニテ火氣ヲ多ク受テ生レタルモノ
ナリ火氣ノ神ハ禮ナリ故ニ自然ニレカリ禮ヲ知テ
ナスニ非ズ故ニ其他ノ事ハ皆鳥ナリ人ハ礼ヲ知ナカラ
各礼ナルハ禽獸ニモノトレリケレハ詩人モ人トシテ礼ナク
ハ何ゾハヤク死ザルトイヘリ人タル者ハ各欲ノ性ヲ固有
シテ各欲ノ理ヲ知ナカラ欲ノ心ヲ心トスルハ禽獸ニ異
ナラス禽獸ハ禽獸ト生タルモノナレハ罪ナシ人ハ人ノ性

アリテ禽獸ニ近キハ大ナル耻ナリ

或同心ハ靈覺ノ名ナリ人物トモニ靈覺アリ心ノ靈
知覺ハナリ理氣ノ知覺ニアルカ如クキユルハ如何
曰靈覺系理也理ノ靈覺ハ至テ明ニ至テスミヤカナリ故
ニ感トノミニイヒテ知覺トハ云ガタシ至テ神靈ナルガ故
ナリ聖人ハ人ノ神明ナリ平人ハ聖人ノイミタラケル
ナリ禽獸魚鳥草木ハ氣ニヨリテ質備ナル故ニ靈覺
ニテシ故ニ未ニナリテ氣質ノ靈覺ノコナリ本理ノ照ハ
ラヨハス人ハ靈覺全シ故ニ生ヲ知リ死ヲ知ル死生ニアラス
獸ハ生ヲ不知死ヲ不知死ト共ニ亡ブ獸ハ氣質ノ知覺ア
ツキ故ニ死ヲカナレム事ヲ知ノミ鳥ハ獸ヨリモ知覺ウ
スレイタミテ哀鳴スレドモ死ヲ恐ル心ハナレ大鳥ハ獸ニ

近キモアリリ魚ハ感ノニアリテ知覺ナシ其中大魚
 ハ鳥獸ノ知覺ノ如クナルモアリスコノ感ハ氣ノ感ナリ
 理ノ感ニ異ナリ草木ハ感モナシ質ノ生ノナリ次ニ
 ニ知覺ノウスキヲ以テ石ノニラ見ヘシ

集義和書日卷第七

始物解

一 易云古者包犧氏之王天下也仰則觀象於天俯
 則觀法於地觀鳥獸之文與地之宜近取諸身
 遠取諸物於是始作八卦以通神明之德以
 類萬物之情

伏羲ハ天地ヲ父母トシ天地ノ造化ヲ助テ天ニツイテ天下
 ニ王タリシ神聖ナリ天地ヒラケテ聖人ト云名傳ハリシ伏羲
 ヲ始トス伏羲以前ニモ聖徳ノ人ハ多カルヘケレ凡人ニ教ント
 思フ心ハヲコラサルナリイカントナレハ人ニトヒナケレハ明知モア
 ラレス不孝子ナケレハ孝子ノ名ナク不忠臣ナケレハ忠臣ノ
 名モナカリシ也是故ニ伏羲ヨリサキノ聖人ハ渾然トシテ

シラレサルコトハリナリ伏犧ノ時ハ天地開闢ヨリホト久レク
人モ次第ニ多ナリ物欲モ少ツキザレテ人心ニトヒ出来シカ
ハ伏犧コレヲカナシニタマヒテノ教ト思給フ心アリヨツテニツ
カラ天地ヲ師トシ天ノ日月星辰ノ象地ノ風雷水火ノ時ニヨ
リシキニ處テ見タマヒ春復秋冬ノ時ニタカハス山澤ノ氣ヲ通
スルノ神ヲシテ變テ察シテ天理自然ノ文章鳥獸ノ羽毛ノア
マニモアラハレテ至誠無息ノ感スル處ヲ知テ近クハ其身
ニモトリ遠クハ万物ニモトツテ始テ八卦ヲ作タマフ此八卦
ノ象ヲミル入フカクミレハ天地神明ノ徳ニ通シ精ク察スレハ
万物ノコトハリ皆此中ニ在リ此時セテハ文字モ書物モナカ
リレ也此八卦文字經書ノ始ナリカサスルニハヲ以シテ六十
四卦トナルコニシテイテ天地万物ノ理コトクク備レリ古者ハ
六十四卦ヲ見テ心ヲミガキ身ヲ脩メ家ヲ一ノ國ヲ治メ天
下ヲ平ニス治乱共ニ通ゼスト云コトナレ

一作結繩而為網罟以佃以漁蓋取諸離

葛カツラノマウナル物ヲトツテ糸トシ繩トシムスヒテ網ヲナシ

山野ニシテハ鳥獸ヲトリ河海ニシテハ魚ヲトルコトヲ教玉レリ

是☲☵卦ノ象ヲ以作り玉ヒス離ハ廉ナリ離ヲ目トシ其徳

ヲ廉トスコレノミノ兩目相シ井テ物ノ此ニソクノ義ナリ

一包犧氏没神農氏作斲木為耜耨木為耒耨之

利以教天下蓋取諸益

伏羲ト神農トノ間一万七千七百八十七年也ソノ間女媧氏

ヨリ無懷氏ニテ十五代ハ知テ其外ハシラズ有徳ノ君ノミ

イ、傳ヘタルカ神農氏木ヲケツリ其サキヲトクシテ耜ト

ナレホシタハミノ耒トシ柄ヲナシ是ヲ以テクサキリテエツテオコシ
タ子ニキウフル事ヲ教タミリ是 エキ 卦ノ象ヲ見テ作
タレハス震巽ノ二体ミナ木ナリ益ノ象ニトル風雷ハ相助ケ
ナハチニスモノナリ耒耜ノ二木相助テエツテ起ス是ナリ耒スキトヨリ
テ下エツウゴカレシユス風ハイリ雷ハウゴク上入下動クハ益
ノ徳ニトレリ故一雷風ヲユリテ雲ユキ雨ホトユス處ヲ見
タレヒテ農具ヲ作テ耕作ヲ教タミフニ耒耜キコヲ始トス天
下ノ益ハ耕作ノ事ヨリ大ナルハナレ耒ライ耜キコヲ本トス益ノ義
ナ故ニ天施シ地生ス與時偕行トイヘリ天地人ナラヒ益アルモ
ハ耕作ノ業ナリ故ニ民ハ國ノ本ナリト云古者ハ木ヲケシリ
テ耒スキ鋤ウニ作リシカトモ後世ハ人ノカモヲトリ木ノ性ヨハクナリ
タル故ニ柄ハカリ木ニテ作り金鉄キテヲキタヒテ作カヘタリ
國天下ノ平治シテ長久ノ政ヲナス道理ナリ 此 卦ニテ聖
見タリ 此 三ノ三陽ヲ一陽損シテ 此 卦トナリ 此 三ノ三陰ヲ一陽益
テ 此 卦トナル此風雷ノ二卦ヲカサテ天下國家ヲ
利益スル仁政ノ象ヲ見タリイカントナレ上ヲ損シテ下ヲ
益ガエヘナリ或同上ヲ損シテ下ヲ益ラシテ益トスルハ何ノマ
云上ヲユリ下クム時ハ乱レ七フ損コレヨリ大ナルハナレ上實
素ニ下豊カナル時ハ國治天下平ナリ益コレヨリ大ナルハナレ
同上ハ人ニシテ下ハ衆多ナリ上ノ財用普クホトコレスクラ
ニ不足又儉約ノシキテハ何ノ世ニモ下レタカハスト見タリ聖
代ニイカシテ能ホトコレイカシテ儉約ノ法立玉ヘルマ云
仁者ハ不富トテ聖賢ノ君ハナラテ以テ財用豊ナラフス
ホトユシスクフトアタハス只ホトコサスレテ上ヲ損シ下ヲ



益ノ政アリ上無欲ニシテ物ヲ蓄ヘアツメタニハサハ財用ヲ
ノツカラ下ニ散シテ下ノ心上ニアツテ服スルモノナリ人心ノ
帰^キ眠スルハ益是ヨリ大ナルハナシ是ホトユサスシテ上ヲ損
シ下ヲ益ニアラスヤ無欲ニシテカサリナキヲ質^チ素^ソト
云上古ノ風俗ナリ如此ナレハ治サルニ平カナリ此特ニ天氣
順ニシテノ五穀ノ多コト水災ノコトシ故ニ民不仁ナル者
ナクウエニ及フ者ナリ人々無欲ニシテ足コトヲ知レリ故
シクヨリシテ起リ盜賊^{ドウゾク}イツレノ所ニカ出シマ心法治道^シ
ニ無欲ヨリ先ナルハナシ無欲ナルトキハ心静ニシテ靈明生^ス仁
義禮知信ノ性自然ニ照スモノナリ此心法ヲ知テ用ルルハ
スクナシ民ノ如キハテ子ク教テ知シムルコト不能ク政ヲ以
不知^フ不識^シ無欲^ムニ在^リコトアリ後世ハ文明ノ運ニテ人立早アラ

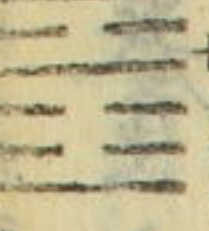
ハル文章^ハ章^ハカサリニ近シ然物ニ至ルニテ多ナリヌカサリ過^ヒ
ハ欲生^シ之者長^クスコニシイテ禮儀ノ則^ニアツテ不^ト過^ス不^ト奢^ス欲
ヲフサクモナリ是ヲ名^シケテ式ト云此式マ時處位アリ
其人ニ^テシ^テシ^テサ^レハ語^カタシ後世ハ禮儀ノ則^ニ時處位ニ不^ト時^ク
奢^ス欲^ノ源^ヲフサカス當然ノ式ナクシテ奢者ヲオサ^レ儉^ス
ヲナサシメニトス大海ヲ手ニテフセクタトヘノ如シ問其礼
儀ノ則^ノ當然^{ナル}式ハイカ、云予其位ニアラス亦時ニ
アラス知^ト云凡云ベカラズ 問今質朴無欲ノ風俗トナラ
ハ農人ハヨカルヘシ然^レ凡數十年ノ奢^トカサリニヨリテ職ヲ
立タル工商ハ幾^ク万人ト云數ヲ不知^ル男女妻子共ニウエニ及
ベシタト古者ノ羨^ム風ナリトモ數多ノ者困窮^ニ及^ヒシハ仁
政トハ云カタルヘキカ 云是以時處位ノ至善アリ

人モ困窮ニ及者ハナキマウアリ 問九様ノ事ニ上ノ
 タクハへ多カラテハナリカダカルベキカ 云仁者ハ上ヲ損シ
 下ニ益ス故ニ不富ト云ハ身ノ為ノ財用ナキヲ云益ノ時ハ
 天下ニ財用ミナクテ多モノナリ財用ト云ハ金銀錢等
 ノ事ニハアラス金銀多トキハ却テ天下困窮スルモノナリ
 真ノ財用ト云ハ五穀ノ多トキハ新材木麻綿等民生日用
 ノ物ヲ云ナリ益ノ道十年ニ及テ行ハル時ハ五穀アニアリ
 リ是ニツイテ四時ノ配ニテ大身小身共ニ我一年ノ財
 用ヲ四ニ三分ヲ以テ其年ノ用ヲ達シ一分ヲタクハトス是
 天ノ春生レ夏長レ秋ニノリ冬一時ノ造化ハカクシサメ来
 歳ノ陽生ヲタクハユルニ合ス如キスル時ハ九年ニテ三年ノ用
 アニテ二十年ニテ十年ノタクハアリ是ヲ以テ不時ノ用ニシテ

ルナリタトロイカナル大旱大風洪水火災ノ變ニアイトモ民不勤
 夷狄ノ難アリトモ軍用乏キトナレ天下ノ為ノタクハナレ
 ハ多トイヘトモ一人ノ富トイハス君子ハ心ヲ洗ヒ小人ハ其樂ニシテ
 樂テ外ノ願ヒナレ益ノ道至レリ 同レシテ天下ニ奉行
 職諸侯ノ金銀多トキハ時代ハ天下トモゆレ
 不取時代ハナリテ天下困窮セシ事ナリト云レ
 ハ上無欲ト云レ財散シ有欲ト云レ財取ル事ト云レ
 カレト云レ 云道ヲ行ハレ代ノ風俗ハ行職ノ欲ト無欲ト取
 ト不取ト云レ欲ありて取ある事ト云レハレト云レ
 ハ其人ハレト云レハレト云レハレト云レハレト云レ
 事乃外レシテハレト云レ何ト云レ也ト云レハレト云レ
 信奉行ノ用ト云レハレト云レハレト云レハレト云レ

二十倍百倍の貴山木分者あり又其奉行へ出入の
 者よふくくくまいなひすきこひ入取ふ十億百倍つ
 いゆるとりつり也毛よふりて奢目こよ長とまの諸國
 の士民の膏澤一而ふつよて天下困窮する者あり
 吾京めく大原八瀬此薪炭賣して山毛紙こころり
 八瀬大原此山内之怡妙也民家とく此のあか
 而も今出川へ河こり西八家町色もて少乃同紙うま
 毛れも此薪こころりよあはれ伏見よりたせよ
 上る本とも買とよてたか上り毛い多事よめく山の
 毛よじつり今に毛て八瀬大原此柴薪つくと事
 かりも八瀬大原乃在而紙多くして京へ紙毛い
 毛く八山つとも本賣毛く毛くじり數十年此毛多毛上毛紙

毛ととも天下乃く奢長一諸國乃潤澤とく毛かじり次毛
 毛り毛益めあはれ  天下此潤澤とく剥盡し
 毛り毛り此潤澤を毛り此盡し毛家四海困窮か
 毛無欲毛く毛様毛毛も道と知毛毛有欲毛
 毛毛毛り多毛毛毛毛て中毛り都毛く通路自
 毛る毛奢て毛欲毛り毛り毛一毛毛
 日中爲市致天下之民聚天下之貨交易而退各得
 其所蓋取諸噬嗑 

壘人天下ノ民ヲ見タフニ有餘アリ不足アリ生ヲ養ノ道全
 カラス  象ヲ見玉フニ口中ニ物アリクネアハスルモハ味アリ

上ノ養食トナル又卦ノ徳ヲ見タムハ上明ニ下動ク是ニヨリテ
 日中ニ市ヲナシ天下國々所々ニライテ人ヲアツメ有トコロノ物ヲ以
 テ無トコロノ物ニカヘテ各其生ヲ養フコトヲ得セシメ給フ五穀ア
 ル者ハ魚ナレ魚アル者ハ五穀ナシ交易スル時ハタカヒ用ヲ達ス
 農業ヲ事トスル者ハ鋤カニテ造ルニイトナシ鋤鎌ヲ造者
 ハ耕作ヲカスル事アタハス故ニ農人ハ易ルニ五穀ヲ以テ鍛
 冶ハ農具ヲ造リテタカヒニ交易シテ各其所ヲ得タリ
 万物皆如此又農人職人自来テ易ルニイトナシ商人
 ニテ買取テ相通ス三三ハ上ヲ離ニシ下ヲ震ニス離ハ明
 ナリ日中ニトル震ハ動ナリ市ニトレリ上明ニ下動ク噬嗑
 ノ義ナリ又上明ニ下動ハ有道ノ世ノ象ナリ上道アリテ
 明カナル進メサレ居天下並ヨリテ戒メサレ居惡ヲナサス上ノ好々
 不仁義禮智信ノ徳也惡ニタマフハ不仁不義不禮不智
 不信ノ由徳ナリト人皆心ニ通シ知故ナリ其上闇キ處ナラテ
 ハ惡ヲナサス盜賊モ夜ヲ好ミ不義ヲナス人モ夜ヲ悦ビ狐狸
 蚊虻ノ類ニテ夜ヲ得テ出ルカ如シ天下道クテハ種々ノ小
 人惡人出ルモノナリ聖主賢君ノ政ハ何ノ勞スル事モナシタ道
 明ニシテ上ニ位シタマフハカリ也日月ノ天ニカハリテ天下人其
 處ヲ得テ用シナスカ如シ下動ハ人々其所作ヲツトメテ動ナ
 リイソカハキ動ニアラス人ハ動物トイヘルモ此心ナリ上明ナ
 キ天下人皆真實ニシテカサリナクヘツライナシ各利ナク
 便利ナシ故ニ夙ニテ夜ハニイ子テ善ヲナシテ不已無
 用ノ世事ナキ故ニ靜ニシテ樂メリ善ヲ為ト云ハ人々ナスヘ
 キ事ヲナシテ各利ノミレハリナキヲ云如此ナレハ天下ハ治

集義和書卷之二

言名同七

又サレトモ平カナリ噬嗑ノ道至レリ

神農氏没黄帝堯舜氏作通其變使民不

神而化之使民宜之易窮則變六則通六則又

是以自天祐之吉無不利黄帝堯舜垂衣裳而

天下治蓋取諸乾坤

神農ヨリ黄帝ニテノ間五百餘歳又黄帝ヨリ堯舜

ニテ三百餘歳ナリ天下古今ノ体ヲ見ル大方五百年ニ

大變ス五十年ニ小變ス其變ニ通シテ時ニヨロシカラサレ

人民退屈シテコタルモノナリソレヨリ色々ノ惡事モ生シ

風俗ノ乱トナルモノナリ黄帝堯舜ノ時ハ伏羲神農

ノ時ト天下ノ人情時變大ニカハレリ故ニ其變ニ通シテ時

位ノ宜キヲナサレタマヘハ人民善ヲ為ニ進テ退屈セサリ

ナリ天地人ヲ一貫ニシテ万古一日ナルモノハ誠ノミ古今ニカハリナ

モノハ五典十義ナリ禮式法度ハ時處位ニヨツテ變通シ

テ定メラス神而化之ハ聖人ハ過化存神ノ妙アリ神明ノ

徳アル故ニヲトサレトモ天下ヲソレ賞セサレトモ人民ス、日月

ノ照臨シ流行スルカ如ク恐テ愛シ日日善ニ化シテ不知

易ノ理ヲ以テ見レハ万事キマリテ行ヒガタク為カタクナル時必

ス變ス明王賢君ハ其時運ト共ニ變通シテ可行可

為易知易從政教アリ世ノ中キハル時ハ多事多物ニ

シテ煩シクナルモノナリ此ヲ變通シ宜クスル易簡ノ善也

易簡ナル時ハ長久ナリ易簡ハ即天地ノ徳也民ノ父母

タルノ道ナリ故ニ天ノ福アリテ吉ナリ民三十其利ヲ利ト

ス黄帝堯舜三聖ハ頭ニ冠ヲ著シ身ニ十二章ノ衣

裳ヲ服シ日々南面ノ位ニミシクテ琴瑟ヲ調樂ニタマフ
分カリ也シカレ臣君子ハ其心ヲソクシテ下ヲメクミ小人ハ其カヲ
盡テ上ニシタカヒ君ハ首ノ如ク臣ハ手足ノ如シ諸侯ハ弟ノ如
民ハ子ノ如シ無事ヲ行ヒ無為ニシテ成コレ徳治ノ至ナリ夫
不^{スモライハ}言^ハ而四時行^レ百物生^ル天氣クタリ地^ノ氣ノホリテ和スル
ハ^ニ天氣^クタラハス地^ノ氣^ノホラサル時ハ四時不行^ル万物不^レ生
上ノ心^下ニクタリ人情時變^クヲクハレク知テ惠^ミニアマ子^キハ
天氣^ノクタルニ取^ル乾ノ道^{ナリ}下ノ心^上ニ帰^ル服^レテタカハサハ天
下ノ事^ヲフスト云^フコトナキハ地^ノ氣^ノノホルニ取^ル坤ノ道^也臨^ニ
以^テ簡^ラ御^ス衆^ヲ以^テ寬^クコレ乾坤易簡ノ徳ニトル也日本ニテモ王
代ノ昔ハ易簡ナリ仲哀天皇應神天皇ミツカラ大將
トナリテ九州ニテクタリタミヒ甲冑ヲ枕^トレ山野ヲ家トシ
タミヒタルニテ易簡ナル事知^レタリ遠國ノ山賊ニテモ天子ナラ
大切ニ思奉^リテ何^ニテモヨキ物^アハ玉ニサケントテ都^ヘ上^レ
リ^日南^北向^ノ暄^ヲ玉ニササナント思^ヒレ昔^カレ^モ物語^ヲオロカク
事^ニステ笑^ヘトモ王化ノ至^リ感^スルニ堪^タリ天氣クタリクタ
ル事^名モナキ一草一木モ造化ノメクミニモル、事^ナキカ如^ク
奥山ノ賤^オ男^オ賤^メ女^メニテモ王徳ノ仁政ニアツカラスト云事ナシ
上ノ下ヲ見^タミフ事^子ノ如クナル故ニ下ノ上ヲ見奉^ル事^父母ノ
如シ仁政トテ人^{コト}ニ物^ヲタメハルニ非ス井ヲホリテ水ノミ田ヲ
タカヘシテ食^ス帝徳ノ恩ハ何カアルヤトイヘル信ノ仁政ナリ
無道ノ代ニタカヘセトモ食^ヲ得^ス婦^ハ織^トモ衣^ヲ得^ス却
テタカヘサスヲラス民ヲメクミサル者衣食ニ飽^ム滿^セリ天下
ミナ耕^シテ食^シ織^テ着^工商ハカヘテ食^スイトミナケレ

凡セハクニキ事ナク貧ナレ衣食及シカラサル政道大
 ナ徳ナリ上入ヨク民ヲ子ノ如クスル仁心有テク無欲ニシテ
 恭儉ナラテハナラサルトナリ帝堯四海ノ主ニシテ
 茨キラス榘柱丹スラス黒木作りカマフキナルヨキ教
 ナリ日本ニテモイニハカクノ如クナリト見エテ天照皇ノ御
 宮殿ハカマフキナリシカルニ後世モロコシ秦ノ始皇カ惡政ナ
 リシ咸陽宮ノ殿ヲ移テ大内裏ヲ作ラレタルハ大ナルアヤ
 リナリ王威ノヲトロエタル事尤ナリ 問天下ノ廣ヲ子ト
 シ惠ミタニハ琴瑟ヲモテアソヒタニフノイトニハアルニキカト
 云時ナリ禹ノ水ヲ治タニシ時ハ婦ヲメトリ給ヒテ僅ニ四日ナ
 リシニ帝ノミユトナリラウテテ出タニシ天下ヲメクリテ外ニ事
 居タニヘリハ年ノ間ニ三度ニテ我門ヲ通りテモ門内ヘハタニ
 ハス御子生シテナキタニフヲ聞タニシテモ門ニ入テ見タニハス子ト

モシタニハサルカ如シ八年ハ程又シキユト也タトヒニ二年程カ事
 ナリ凡我家ヲ過ルトキハ内ニ入テ五三日ノ休息ハアルヘキコト
 ナリシニテユソアラフス凡入テ妻子家内ノ安不ロヲ見タニフホ
 トノ事ハアルベキ事ナレトモ天下ニ水アフレテ人ノ居所不定コト
 ヲ憂タニフ事我子トモノ多ク流浪スル如ク思ヒ給ヒテハ
 クモ御心ニイトニナカリシ故ナリ八年ノ間冬トナク夏トナ
 水ヲワタリタニシ故ニ御手足ニ勝アカリマナリト云リ
 其時何ノイトニアリテカ琴瑟ヲ調ニヤ其後水ニ十海ニ切ラ
 トシ人ノ居ヲ安シ五穀ミニリシ時ハ天下ニナ樂ヲ得タリ此
 時又イニタ心モトナキトテ國ヲメグリ代官ヲ下シ諸役人ヲ召
 ヲセ朝夕念ヲ入スルトキハ人ノ民其事ニツカハレテ耕作ノイトニナク

事忙イカシクシテ父母妻子サシ亡くと養フ事モナラサル様ニテハ然
 ル時ハ色々ノ悪事モ出来偽イカモ生シ風俗アレクナリテ洪水コウスイ難
 ニ越スヘシ洪水ハ人身憂ナリ風俗ノヨカラサル心ノ憂ナリ人
 民ノ難ノソイテユタカナル時ハ肝要ノ事ハカリヲヨクシテ之ノ
 役々ニヨキ人ヲソナヘヨキ教ヲナシテ後上タル人ハ無為ブイニシテ琴瑟
 ヲ樂ニタミヒ小事ハ無事ニナリ大事ハ小事トナルマウニ下知
 法度ユルクトシテ位シタミハ天下大平ニシテ貴賤上下共ニユタカ
 ナルモノナリ天ヲ見シハ日月星辰ノ四象ハカリニテ晝夜チヤヤ四時行ハ
 ニカ物生ス地ヲミシハ水火土石ノ四靈分カリニテ雨露霜雪ルイ風雷
 時ニイタリテ万物育ス上ニ日月星辰カハリ下ニ水火土
 石ツラナル衣裳イロウヲタレタル象ナリ黃帝堯舜衣裳イロウヲ
 名テ無為ニシテ天下治ナリ天地ト徳ヲ合セタミテ故ナリ

夫生トシ生ルモノニハ必ス生樂アリ正キコトニ樂マサル
 ニ出来モノナリ無道ノ時凡夫ノ樂トスルコトハ或ハ心ヲ乱ル
 或ハ身命シノミヲ縮メ病ヲ生シ或ハ氣キ隨スニナリ或ハ家財カサイヲ失
 或ハ奢コソ或ハ吝キン或ハ家ヲ亡シ或ハ人ヲ損シ下ヲ虐スルニ及
 人樂ミ多シコレヲ俗樂ト云ナリ欲ノコノムコトナ故ニ樂ノ様ナ
 流リウシ流ケテ心クラクナリ或ハサカタチモトリナトシテ却
 ナタル苦トナレリ聖人ハ此人情ヲ知タミフニヨリ國天下治
 無事ニシテ人民生樂ヲナスヘキノ時ニ至テハ天地ノ律
 呂リョヲウツシテ雅樂カヲ作り正キ如ニライテ樂ミタミハ下ニナ
 コレニ化シテ雅樂カヲ好リ或ハ糸竹ノ調テウヲモテアソビ或ハウ
 タイマイナトスル雅樂カノ風ハ淡ニシテ甚面白キコトモナク
 之ヲ事モナシ是ニ深キ者ハ道德ヲ助ケ浅キ者モ不知

不識真樂ニ遊テ風俗衰ナリ物ニテ君子ナラズ真ノ
 樂ニハレラサルモノナリ樂ニスレテハ國天下ヲヌカニ治ルコトハ
 ナラサレリ故ニ樂メル君子ハ民ノ父母ナリトイヘリ亦古人云
 有徳則樂樂則能久詩云樂只君子邦家之基ナ
 リト云リ天下人上ノ樂ヲ以テ人々ノ樂トシテヨロユヘリ後世
 ハ上タル人ノ樂ハミナ下々ノ困窮トナリ道德ヨリ出ル人欲
 ヨリ出ルトクカイナリ天下ノ人心正樂ナキ時ハ必ス淫樂ナ
 コルモノナリ天子諸侯公卿大夫媼樂ヲ好ム時ハ必ス日々ニ
 盛ニナリテ奢生シ士貧ク民困窮ス天下ニナ媼樂ヲ好
 テ人心邪ニナリ風俗ニタル終ニ乱世トナ生付正キ君ハ是ヲ
 忘テ媼樂ヲセスレラサレハ正樂ヲモセス行義高ク和ナク
 万事法度強ク俗語ノ石ニテキヲツメタル様ナレ諸人氣
 プツメテ或ハ病者煩人多シ士民凡ニウトミテ其代ノカ
 ス人氣ヲムシエトヲニテ世継ノ君モ先代ノカタキニヨリ諸人モウ
 トミテイサムル事ナレハ上下凡ニ鬱鬱ノ氣ヲハラシテ大ニムコト
 ナリ其正キト云モカタキハカリニテ和ナキハ禮樂カ子サル
 政ナリ正樂ハ清風和氣アリ上タル人是ヲ好トキハ心ユタカ
 レテ下タル者是ヲナス時ハ欲スクナレ君臣父子夫婦兄弟
 弟明友和樂ス或ハ時ノ真ニ棄シテ系竹ヲ奏シ或ハ人
 レラヘテ靜ニ樂ム凡ノナレ恭儉ニシテ驕奢ナレ五倫和睦
 スレノミユレ黄帝堯舜ノ衣裳ヲタテテ天下治ニルナリ禮
 モ亦後世ノコトク煩ニキ事ニアラス説命ニモ禮煩則乱
 トイヘリ禮ハ恭儉ニシテ事スナク和マルヲ以テ吉トス矣道
 ノ世ニ禮ナキ故ニ貴賤凡ニ苦勞スル事ヲ不知マテ學者者

不識真樂ニ遊テ風俗衰ナリ物ニテ君子ナラズ真ノ
 樂ニハレラサルモノナリ樂ニスレテハ國天下ヲヌカニ治ルコトハ
 ナラサレリ故ニ樂メル君子ハ民ノ父母ナリトイヘリ亦古人云
 有徳則樂樂則能久詩云樂只君子邦家之基ナ
 リト云リ天下人上ノ樂ヲ以テ人々ノ樂トシテヨロユヘリ後世
 ハ上タル人ノ樂ハミナ下々ノ困窮トナリ道德ヨリ出ル人欲
 ヨリ出ルトクカイナリ天下ノ人心正樂ナキ時ハ必ス淫樂ナ
 コルモノナリ天子諸侯公卿大夫媼樂ヲ好ム時ハ必ス日々ニ
 盛ニナリテ奢生シ士貧ク民困窮ス天下ニナ媼樂ヲ好
 テ人心邪ニナリ風俗ニタル終ニ乱世トナ生付正キ君ハ是ヲ
 忘テ媼樂ヲセスレラサレハ正樂ヲモセス行義高ク和ナク
 万事法度強ク俗語ノ石ニテキヲツメタル様ナレ諸人氣
 プツメテ或ハ病者煩人多シ士民凡ニウトミテ其代ノカ
 ス人氣ヲムシエトヲニテ世継ノ君モ先代ノカタキニヨリ諸人モウ
 トミテイサムル事ナレハ上下凡ニ鬱鬱ノ氣ヲハラシテ大ニムコト
 ナリ其正キト云モカタキハカリニテ和ナキハ禮樂カ子サル
 政ナリ正樂ハ清風和氣アリ上タル人是ヲ好トキハ心ユタカ
 レテ下タル者是ヲナス時ハ欲スクナレ君臣父子夫婦兄弟
 弟明友和樂ス或ハ時ノ真ニ棄シテ系竹ヲ奏シ或ハ人
 レラヘテ靜ニ樂ム凡ノナレ恭儉ニシテ驕奢ナレ五倫和睦
 スレノミユレ黄帝堯舜ノ衣裳ヲタテテ天下治ニルナリ禮
 モ亦後世ノコトク煩ニキ事ニアラス説命ニモ禮煩則乱
 トイヘリ禮ハ恭儉ニシテ事スナク和マルヲ以テ吉トス矣道
 ノ世ニ禮ナキ故ニ貴賤凡ニ苦勞スル事ヲ不知マテ學者者

八跡ノ三見テ真ノ禮ヲ知サレニ格法ヲトメテ禮ナリトイヘ
リ故ニ世俗ヨリ儒道ノ禮ハナリカタキ事也ト思ヘリ今ノ世
ニモ時處位ニ叶タル真ノ禮行ハ上下貴賤凡ニ安堵シテ
心ヒコソク体ユルヤカナル様ニ思ヘシ儉幼ノ戒ナクシテモ厚キ風
俗トナリ長久ナルヘシ

一剡木為舟剡木為楫舟楫之利以濟不通致遠
以利天下蓋取諸渙

☱ノ卦巽ノ木坎水ノ上ニアリ又巽ハ風ナリ木水上ニツカシテ
風フク時ハ行ヘシ車馬ノ不及處ニ至ル聖人はヨツテ木ノ中ヲ
テリ虚ニシテ舟トナシ楫ヲ作テ舟ヲユカシム帆ト櫓ト其中
ナリ日中ニ市ヲナシテ交易ストイヘ凡ハ行ナリカタキ事
馬ノ及カタキ不通ノ所ニ舟ヲ作テ川澤湖水海岸ノ渡

シ物ヲノセテ有無ヲ通セシム第一如ノ不通ノ地ニモ教化
及テ道ヲ知シムヘキタメナリ

服牛乘馬引重致遠以利天下蓋取諸隨上古ニ
牛イニタ鼻ヲトサス馬イニタ羈鞅轡ヲツケサル故ニ用
テナサス是ニ至テ始テ牛ヲツカヒテ重ヲヒカセ馬ニノリテ遠
キニ行ミナ其天然ニヨツテ其性ヲ逐レムルナリ ☱卦象

上ヨコヒ下ウツ入牛馬ニノル時ハ物勞シテ人安ス是下勤
上悦フナリ又 ☱六剛也 ☱八柔ナリ剛来リテ柔ニラタル時ハ
☱トナレ牛馬ハカツヨシ然レ凡入ニシタカヒツカハルハ是剛ノ柔
ニクタルノ義ナリ後世ノ聖人隨卦ノ象ト義トヲ見テ天下
利シタニアソレ入ハ万物ノ靈ニシテ知アル故ニ人ヨリモ剛ナルモノ
ナレタカフナリ舟楫ヲ作ハ植物ノ材ニ隨テ河海通ス

衆馬ハ動物ノ性ニ隨テ道路通ヌ牛ノ性ハ順ナリ故ニ是
 ノカフ馬ノ性ハ健ナリ故ニ是ニル牛ニモリ馬ヲモツカフコト
 アリトイヘ凡第一ノ処ニヨツテ云リトモニ遠クイタレテ天下ヲ
 利スルナリ

一重門擊柝以待暴客蓋取諸豫

豫ハアツカシメ備ルノ義ナリ舟車馬牛ノ利出来テ天下
 ミチヒラケ通ヌ故ニ人民ミチ其処ヲ得其宜キヲ得テ悦
 フ豫ハ喜悅豫樂ノ時ナリ人悦豫スル時ハ怠惰ノツイ
 エアリ怠惰シテ備ナキ時ハ必ス難生ス其上四方道路ヒラケ
 テハ邊境ノ禮儀ヲ不知者或ハ暴人ナトモ至ルコトアテニカ
 故ニカ子テ門ヲカサ子柝ヲウツテ備ヲナス時ハ憂ナレ門
 ハ外ノ暴客ヲフセキ柝ハ内ニ怠惰ヲ戒ム上世ハ門

雨ヲセグバナリニテ戸サス事ハナカリシナリ此時ニ至テ始テ
 屋ノ戸ヲ閉外ニ門ヲミフケタリノ卦中ノトヲリアキタハ
 大路ノ如シ三三ノ卦ノ内卦外ニ陽フサカリタル八門ヲミフケテ
 内安ク静ナルノ象アリ又外卦ノ二陰ヲ重門ノ象ニトナシ
 一陽ヲ輟手柝ニトナシタルトモ云リ外卦ハ震ナリ震ハ動ナリ
 一陽内外ノ間ニライテ動クハ柝ヲ輟手テ戒ムルノ義ナリ雷
 出テ地フルス天ノ春夏悦豫ノ時ニライテ戒ムル理ナリ君
 子治世ノ時ニライテ武備ヲヒツカニミフケタリトモ此義ナリ
 新不為梓掘地為臼柝之利萬民以濟蓋取諸小過
 上世ハ人糈ニシテ五穀ヲ作り出スコトサシ多ハ木ノ實魚ナ
 トヲ食トセシカトモ次第ニ人多クナリ五穀ヲ作ルコトモ多カ
 リシ故ニソノ器ナクテ、民用多ク費テ養生ノ道全

集義和書卷七

書簡七

十三

カラス五穀ノ皮靴ヲトルニヤスカルヘキ器ヲ作ント思ヒ給ヒ

☳ 卦ノ象ヲ見タヘハ上ウコキ下トニル上動クノ震ハ木

ナリ下止ルノ艮ハ土ナリ震木上ニウコキ艮土下ニトニル卦曰

禾ヲ治ルノ象ナリ是ニヨツテ地ヲホリカタクシテ五穀ヲ入

木ヲケツリ土ニ入ニコロヲフトクシテウスツカシムハ皮ヌケ正味

アラヒテ万民養生ノ利ヲ得タリ耒耜ハ耕稼ノ始ナリ曰

耜ハ脱粟ノ始ナリ後世ニ至テ木ヲエリクホメテ曰トシ又土ヲ

子リナトシテ作レリ又禾ハモミヲ脱スルスリ曰ヲ作タリ次

ニ五穀多ナリ人多ナルカ故ニ人用ノ速カナルマウヲモトメタ

也今モヤキ禾ムシ米ナトハ粟ヲトルモスカヲ取モ異ルコトナ

レ曰ニテツキ、ハク食トナス是上古曰杵ノ模様ナルヘシ

軍中ニテカリ田トテ田ヨリイ子ヲカリ来テ其一

食トスルモ同シムシロヲキセ水ヲカケ其上ニモヲカケ火ヲ

タキテムシテ食トス是上古鑄釜ナキ時ノ模様ナルヘシ又

小過ハスミキナルモノスルナリ小ハ陰ニトル中ニ二陽ハカリ

有テ上下ミナ陰ナリ陰ノ多ヲ以テ小キナルモノ過ルト云

陰ハ小人ニトル陽ハ君子ニトル食道ハ小人多カラテハナリカ

タシ小人内外ニミキテ食ヲ作テ君子ヲ養フノ理ナリ此

小人ハ庶人ヲサス君子ハ在位有徳カ子テ云ナリ

弦木多為弧剡木為矢弧矢之利以威天下蓋取

諸睽

睽ハソムクナリ乖ク者ヲ威シ以テ服スヘシ弓ハ武器ノ始

ナリ ☳ 卦ノ象上ハ離火下ハ澤水ナリ火ハ動テノホリ

水ハ動テ下ル是ソムイテ和セサルノ象ナリ然レトモ睽テ

用ヲナスノ道理アリコニライテ弓矢ヲ作タマフ木ヲ
 ナメ強ヲカケテ弓トシ木ヲケツリテ其サキヲトクシハツツ
 ツケテ矢トスコレ曲レルヲ体トシ直キヲ用トス体用相
 クノ理ナリ又先ヘマラシトテ吾前ヘヒク是又ソムキテ用
 ヲナスナリ木ハニカリテ強ハスクナリ弓ハ立矢ハ横ナリマ
 カリタル方ヘ不張シテソリタルカタヨリ引カヘシテ張ミナソ
 ハイテ用ヲナスノ義ナリ聖門撃拊ハ小盜暴人ナトノ防
 ナリ大賊或ハ東夷南蛮西戎北狄ナトノ中国ヲミタ
 ラシ爲ニ来リ又ハ諸侯ノ叛逆ナニハ弓矢ノ備ナクテ
 ハ防キカタシ弓矢ノ武具アリテモ威ナキ時ハ恐ルム
 トナシ武具ヲ備ヘ武事ヲナラハシ武備嚴重ニシテ
 威アル時ハ四方是ヲノソシテ恐レシカスヘキノ心

コラス文事アルモノハ必ス武備アリ文事ハ仁政ヲ行
 テ士民ヲナテ安スルノ事ナリ禮樂制度其中ニアリ武
 備ハ文事ノ義ヲトケシ爲ニ國天下ノ敬言固ナリ今神事
 ノ大祭云^{ツシ}過ガタメノアルカ如シ聖人ハ徳仁愛ニシテ神
 武ノ威アリ其上ニ文武ノ業車ノ^カ兩輪ノ如ク備リテ
 ヲユタリナシ故ニ天下ノ人恐テ愛ス夷蛮戎狄モ仁政
 ヲシタヒ威武ヲ恐テ来服ス是ヲ四海一家ノ如ク中
 國一人ノ如シト云又禽獸ニハ人ヨリモタケクカツヨキ
 物多シ兵器ナキ時ハ禽獸人家ニハハリ害スルコ
 ナリ^キ禽獸ヲトヲカチ惡ヲオトスニ弓矢ノ徳ニシク
 ハナシ作り初ニ弓モ木ニ作り矢モ木ヲケツリテ作シ
 此弓矢ニタヨリヨキ木アリタルナルヘシ万事一物

始ハ質素ナル物ナリ夫ノムイテ用ヲナスコトハ弓
矢ノニニアラス暎ハ乖異ノ義ナリ天地暎而其事
同也男女暎而其志通也ト云リ亦上レ吹下
澤暎君子以同而異ト云リ君子ノ俗ニ交ルコト
取同ク心異ナリ是暎ノ卦ノ火澤体ヲ合セテは同
シカラサルカ如シ

上古穴居而野處後世聖人易之以宮室上棟下
宇以待風雨蓋取諸大壯

上世ハノ家屋ナシ冬ハ穴ニスメリ今山ノ南日向ヨキ所ニ石
ヲ多ミアケ外ニ玉ツツキツカノマウニシテ中虚ナルモノアリ是日
本上古ノ穴居ナルヘシ上世ハノ氣血健ニシテカツヨカリシ
ト見ヘリ俗ハ昔シ氷ノ雨フリ冬時此ツカ穴ニ入タルトイ

ハ凡其始タシカナラス只穴居トミエタリ其ハ野處スト
云リシハ古ノ上ニカヤナトラシキテ居タルヘシ柴木ノ長
キヲ四方ヨリヒキヨセテ上ヲユイ中ヲ虚ニシ中ノ柴木ヲ
カリヌキ上ニカヤナトラカケ今ノイナグロ雉子トマナ
トノ様ニシテ居タルトキユヘタリ上古ノ柴ノイホリ是ナ
リ古歌ニヒキヨセテムスハ柴ノイホリニテトクハ本ノ野
原ナリケリトヨニシモカシラ傳テイヘルカ亦山中ニ住
居スル者ハ冬ハ岩ノホラナト山行カケニカマヨリテ今ノ岩屋
ナトノ様ニシテ任其ハ木ノ枝ノヨキ處ニ又木竹ヲナラヘ
ユカノユトクシテ上ヲラ、イ鳥ノ巢ノヤウニシテ木ノ上ニ住
タリ上古ノ人ハ無病ナリ故ニ穴居シテモ濕氣ニア多
ス野處巢居シテモ風雨ニモイタマサレモ次第ニ世ノ中

自由ニナリ氣血ヨク病氣生シテ沈居シテハ濕氣
 ライタミ野處シテハ風雨ニラカサル故ニ其時ノ聖人氏
 居ラナサント思ヒ給ヒ 卦ノ象ヲ見タニハ雷雨イ
 テニナリミツレ乾ハ下ニ安シ上ノ二陰雙ヘワカレテクタル時
 ハ下ノ一陽ユレラタモツ是ニライテ一陽ヲ棟ニカタトリテ
 サレアケ上ノ二陰ヲマ子ニカタトリテ双ヘフキクタル乾
 三陽ノ下ニスクヤカニ立タルヲ柱ニカタトリ始テ宮室ノ
 制ヲ作りタニフ是ニライテ人居大ニ壯ニシテ禽獸ト
 異ルユト遠シ亦大壯ノ義ナリ
 古之葬者厚衣之以薪葬之中野不封不樹喪期
 無數後世聖人易之 以棺槨蓋取諸大過
 上世ハ棺槨モナクツカラツキ木ヲウエ石ヲ立ルユトモナク

亦喪ニ居ユトモナシ人死スル廣野ノ人ナキ處ニシテ其
 上ニ薪ヲ積テ覆タルハカリナリホトナク朽失テ跡ナシ
 精氣物トナリ遊魂變ヲナスヨトナリニテ人死スル魂氣ハ
 モトヨリ天ニユキ魄体ハ土ニ歸スル常ノ理ニシタカヘルニ別
 フナケク事モ衰情ノカキリホトナケクナリ生死陰
 陽晝夜ノ道ニシテ天理ノ自然ナレハラムヘカラスト、別ヲ
 カナシメテ其哀情ハ人ニヨリテ厚薄多寡アリ上世ノ人
 ハカサル心ナキ故ニ我心ノ誠ホトニツクセリ故ニ喪期數
 ナカリシナリ夫死ニ事ハユト生ニ事ハルカ如ク本意
 ハムナレキカララズニ非ス吾モ精神コソノ吾テレ親モ精
 神コソノ親ナレ精神去トキハ形ハ住アラレタル古屋ノ
 如シコノ精神ヲ明ニ人トイ、坐ニ鬼神ト云君子ノ心ハ

鬼坐 一貫ニシテハタテナレ是故ニ死ニ事ルコト生ニ事ル
 カ如クスルナリ我身ノ死タルカラハ谷隰ニ投スレトモ可ナ
 リ莊子我死ハ野ニステヨ天地ヲ以テ棺槨トセテ
 云レモ此心ナリ然レ上古ニ生ル時モ屋ナカリレカハ
 死シテモ棺ナレ後世ニ生ル時屋アリレカルユヘニ死シテ則
 士ニ入ルコト理ノ常ト云ナカラ孝子ノ心ニツイテ不忽トコヒ
 リ空キカラトイヘトモ今ニテ父母トシツカヘタル人ノ歿ナレ
 ロソカニモテナレカダレ生テ屋室アレ死シテモ棺
 ルキ義ナリ是又生ニ事ルカ如ク心也公ナレキカラニテ
 フモ衣服セシメ棺槨ヲ作テ厚クスルハ孝子ノ心ノ厚キ
 ニ過ル大過ノ義ナリ又^{三三三}ノ象ヲ見タマハ澤ヲ上ニシ
 ホヲ下ニス^{三三三}ハ木ナリ又入ナリ澤ハ土也木ヲ土ニイルハ義

ナリ是ニヨリテ棺槨ノ制ハ^{三三三}リ又^{三三三}ハ悦也親ノカラ
 マシホネイレテ土ニキス孝子ノ心安堵スルハ悦ノ義ナリ
 或同南軒張氏曰君子不以天下儉其親於此而過
 死害也丹陽都氏曰^{三三三}棺槨所以使民養其生送
 死無憾所以依於人者過厚也然養其生不足以當
 大事故取小過之義而已送死足以當大事故取
 大過之義厚カクノ如クナレ不及トコロヲモトメテ葬
 アツクスヘキ義ナリ董永カ身ヲウリテ一生人ノヤツコトナ
 リテ親ヲ厚ク葬タルハ^{三三三}コトニ天下ヲ以テ其親ニ儉セサ
 ルナリ大事故^{三三三}當ルニ足ヘキカ云書六主意アリ時アリ為
 ニスルコトアリ言ノミヲ信スル者ハツイエアリテ益スルナレコ
 トククニ書ヲ信セ共書ナキニレカレトスリ其上言ハ

至賢トイヘ凡不同モノアリナツムトキハ相難シ相争ニ
 至ルヘ同キモ人仁義ナリ夫葬祭ハ家ノ有無ニカク
 ト云リ生ル時モ飲食衣服宮室器物三十有無ニカク
 カフ者ナリ何ソ死ノミ有無ニカナハシメザルベキマ小過大
 過ハ卦ノカサナリシ見テ象ヲトトリ小大ノ文字ニカハシ
 アラス故ニ孔子モ禮ノ法ニカハリテ誠ノウスクナラン事
 ラアヤシシミタニヒ禮ハヨリテ備ヘシヨリハ儉ニシテ敬ノ
 アルヲヨシトス喪ハ事物ヲササメトノヘシヨリハ哀戚ノ情
 アルヲヨシトストノタニヘリ君子ノ天下ヲ以テ其親ニ儉セ
 ヲルコトハ大舜ノ父モシ無道ヲナシタル時コレヲ助カ為
 ナラハ天下ヲ捨タニラ事ヤフレタルワラフツツスツルカ如
 クカコクシタニヒテ一員テノカクニハシトノ主意ナリ天下

ヲタニ親ノ為ニスツルコト易シ況マ其外ノ物ヲマ然レモ親
 ノ養食ノ為葬祭ノ為トテ家ノ有無ヲハカラス産業ヲマ
 フリ家人ヲクルシメ祭祀ヲ絶ラモカハリミスト云ニ非ス古
 命ノ父母ニ事タル者アリ情欲ノ父母ニ事ル者アリ夫
 董永カ至孝ハニユトニ元情ノ及カタキ處ナリ凡夫幼
 ヲナル時ハカリ父母ヲシタフ成人ニシタカイテ妻子ヲ愛
 シ財寶ヲ求メ君ニ事テ位禄ヲ願ヒ朋友ニ外聞ヲ
 思フ種々ノ名利胸中ニヨコタハリテ父母ヲ思フ心日
 ニニウニスレ生ヲ養食モ死ヲ送モ愛敬ト外聞ト共ニ相交
 レリ然ルニ董永ハ親ノ養食ヲユタカニセンカ為ニ妻ヲ迎ヘ
 一家ノ産ヲ盡シテ生ル間ノ養食トシ死セル時ハ我身ヲラリ
 テ葬ヲナセリ全体ノ精神親ニ奉ヒテ私ノ願ナシ人ノ

アリカクキ孝ナリ故ニ至誠神ヲ感セシテ天道神女ヲ
 アタヘ身ヲウケシムコレ其志ヲ好シタマヘナリ然レモ其行ニラ
 イテハ情欲ノ父母ニ事ニ近シ貪ナラハ貪ホトニ葬ラサ
 ェソノ親ノ心モコ、ロヨカルヘケレ身ヲウケテ葬ルハ分ノ義ニ過
 タリ葬ニ身ヲウケル名ニテ先祖ヨリノ田地家財等ヲ
 コトクク平生親ノ養育ノ爲ニウリツクシタル處ニエタリ是
 ヌ親ノ性命明ナラハ大ニイタニキ事也タ、今日情欲ノ父
 母ヲ樂ニシメルノニナリコレ厚ニ過ト云ノ主意ト時トワキ
 ニハサレハナリ古者始テ棺ヲ作タル時ハ山林多カリレカハ
 目前ノ木ヲ伐テウキワリ箱ニサレ死者ヲ入タルハカリナリ
 何ノ造作モナキ事ナリキツレタニ厚キニ過ルト云レハ
 其時ニテハ質直ニシテ道理ノミナリレカ死者ハ至ニ歸ス
 ルトハリニテ其ミ、地ニ葬リニ箱ニ入ハ厚ニ過ルトノ義ナリ親
 ノ親タル鬼神ナリ空シキカラス今ニテ住タル古屋ナレハ少
 ナステ、モ可ナリ親ノ性タル跡トシ其上ニカクノ如クス是ヲ以
 テ其時ニ厚キニ過タルト云リ後世ハ其本ノ心ト時ト考ヘ
 ス次第ニ念ヲハスキカサリヲ加ヘテ分限ニ過テナリカクキ
 事ヲソクスシ以テ厚ニ過ルト心得タリ大ナルマナリナリ又生
 シ養食ハ大事ニ當ルニ不足死ヲ送テ大事ニ當ルニ足ト云
 モ葬ノ厚シ云ニアラズ凡夫心ハ眼前、カカリニテ無^{ナク}存^存
 眞ノ理ヲ不知ユヘニ何モ無トコロニ怠惰スル者ナリ生ル親ヲ
 目ノ前ニテ疎ニスル者ハニナリ大方ハヨク養食フモノナク其
 王付ヨクテ少シキ人ニ過タルトモ大事ニ當カク其
 至誠ノ徳ハイニタ見エサルナリ親死シテ其鬼神ニ事ス

集義社書卷七

書局七

二十一

誠アリ敬アリ幽明一貫ナル人ナラハ君子ト云モノ也レカラハ
 國家天下ノ大事ヲ頼ニアツケテモタレカナラントナリノ三日三
 月期三年ナトノ作法ハ皆鬼神ニ事ル次第ナリ親ノ
 精神体ヲナシテ氣色ニエス音聲キコハサル故ニ別ヲカ
 ナレハ實ハ死生不二也故ニ生時ハ人ニ事ル禮ヲナシ死
 時ハ鬼ニ事ル禮ヲナスナリ時處位ノ至善ヲ不知シテ有
 無人分ニ過テ葬ヲナスヲ以テ厚ニ過ルト心得タル愚者
 リ愚者ハ何ソ大事ニ當ルニ足ヘキヤ夫禮ハ継ヘキコトヲ
 シ傳ヘキコトヲオスト孔子モノタマヘリ今ノ學者者ノ厚キニ過
 ルト云モノハ後世ニ傳ヘカラス子孫継ヘカラス變ニ通セサレハ
 民人禮法ニ退屈ス少キノ哀情ノ誠ニテモ事ノ調カ
 キニ失シテウスクナルナリ孔子喪ハラサセヨリハ職ト
 タニヒレ聖言ニ大ニタカヘリ其本ヲ不知シテ末ニカハルカ故
 ナリ終ニ西戎ノ佛法ヲヒキヘテ中國ノ道ヲ占ヘルモ
 此ナツミニヨツテ也

一上古結繩而治後世聖人易之以書契百官以治萬
 民以察蓋取諸夬

上世ハ人淳ニ事簡ナリレカハ國家天下ノ政事ニヨイテ大
 ナル事ニ大繩ヲ結テヲキテトシ小キナル事ニ小繩ヲ結テ
 定メナシタリ是ニテ事タリ又後世ハ風俗次第ニ薄ク
 事繁クナリテ欺キ詐ルコト眞リタル故ニ繩ノ政事ニ
 テハ事トノイカタン
 道七ヒナト又明夫ノ意アリ是ニヨイテ文字ヲ作テ善
 忠邪正ヲ明ニ符節ヲ作テ真偽ヲタシタニヒレカハ小人

邪曲マカクカクル、處方マカレテ決去マカ書マカハ文字マカヲ云契マカハラシテナリ
 ノ類ナリ是文明ノ始ナリ君子澤ノ天ニホル象ヲ見タミヒニ
 禄マカヲホトコシ下ニ及サントス上ニ恩澤マカヲ見タミヒニ
 ラフモノナリ恩澤マカノ下ニクタルコトハ仁者マカヲ富マカシメテ國郡ノ上
 ニ置ニアリ澤ノ天ニホル民ノ父母タルベキ仁者ノ君位ニ
 アカリ恩澤ノ下ニクタル象也水ハ下ルモノナラハ天ニホル時
 ハ必ス下ニクタル義ナリ此時必ス小人ノサマタケアリ故ニ明夫
 ノ義アリテ明カニ邪曲ヲタシ決去ナリ

集義和書卷第七 終

